

平成20年度

国際標準化活動報告

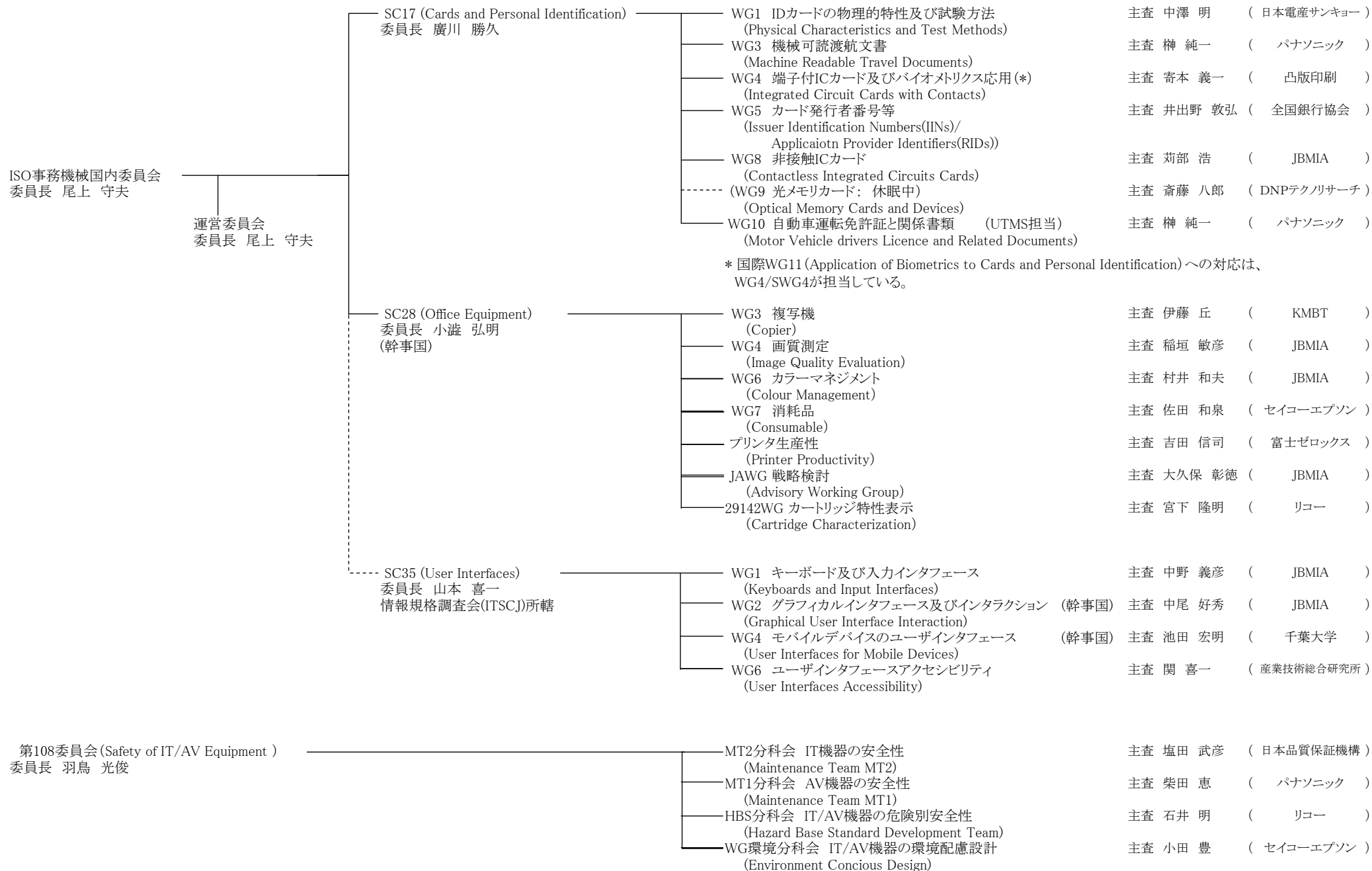
平成21年3月31日

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

- ・ISO事務機械国内委員会
- ・第108委員会

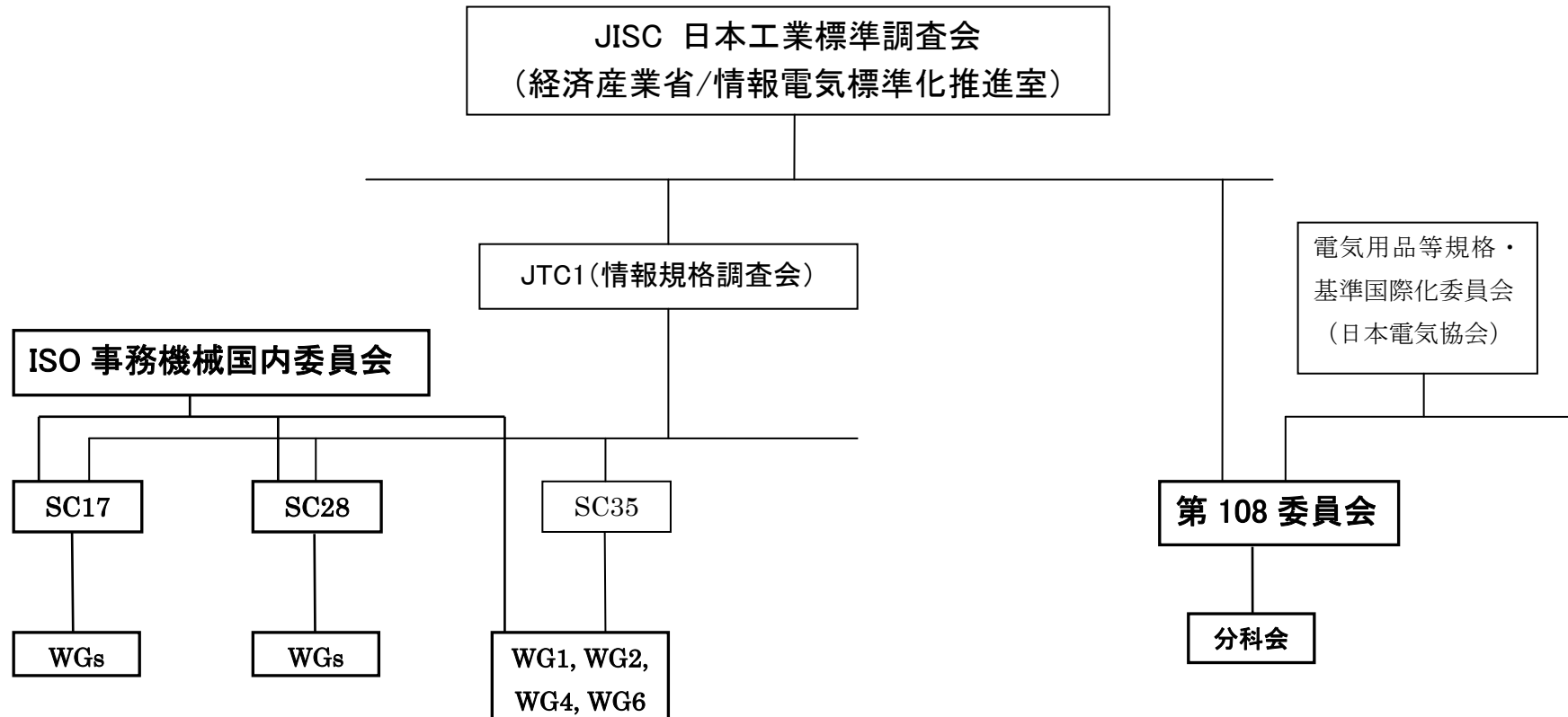
国内委員会組織図

平成21年3月31日現在



(参考)

「ISO 事務機械国内委員会」「第108委員会」の位置付け
－外部組織及び JBMIA との関係－



凡例： **太字** JBMIA が事務局

組織名(事務局) 外部組織

目 次

1 ISO 事務機械国内委員会・同運営委員会	1
1-1 活動概況	1
1-2 今後の主要課題	2
1-3 SC 17 (カード及び個人識別)	4
1-3-1 SC17/WG1 (IDカードの物理特性及び試験方法)	7
1-3-2 SC17/WG3 (機械可読渡航文書)	8
1-3-3 SC17/WG4 (端子付ICカード) 及び SWG4	10
1-3-4 SC17/WG5 (カード発行者番号等)	15
1-3-5 SC17/WG8 (非接触ICカード)	16
1-3-6 SC17/WG9 (光メモリカード)	17
1-3-7 SC17/WG10 (自動車運転免許証と関連書類)	18
1-3-8 SC17/WG11 (カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用)	20
1-4 SC28 (事務機械)	21
1-4-1 SC28/WG3 (複写機)	25
1-4-2 SC28/WG4 (画質測定)	26
1-4-3 SC28/WG6 (カラーマネジメント)	29
1-4-4 SC28/WG7 (消耗品)	30
1-4-5 Printer Productivity	30
1-4-6 SC28/JAWG (戦略検討)	32
1-4-7 SC28/29142WG (カートリッジ特性)	33
1-5 SC35 (ユーザインタフェースインタラクション)	36
1-5-1 SC35/WG1 (キーボード及び入力インタフェース)	37
1-5-2 SC35/WG2 (グラフィカルインタフェース及びインタラクション)	39
1-5-3 SC35/WG4 (モバイルデバイスのユーザインタフェース)	41
1-5-4 SC35/WG6 (ユーザインタフェースアクセシビリティ)	43
2 第108委員会 (オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性)	45
2-1 活動概要 (全体)	45
2-2 74分科会活動概要	47
2-3 92分科会活動概要	47
2-4 HBS分科会活動概要	48
2-5 WG10分科会活動概要	49
2-6 JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要	50
2-7 JIS C 6065 改正原案作成活動概要	51

1-1 活動概況

(1) 総会および運営委員会

総会 1回（平成20年5月）、運営委員会 2回（平成20年4月、12月）を実施した。

(2) 国際標準化活動

国際標準化活動において積極的に世界貢献を果たした。

1) 国際会議委員派遣

46の国際会議に、延べ168名の委員を派遣した。

2) 国際規格投票

以下の国際規格投票に対し回答原案を作成した。

NP投票	7件
CD（含むPDAM）投票	24件
FCD（含むFPDAM）投票	15件
DIS投票	0件
FDIS（含むFDAM）投票	19件

又、21件のISが発行された。

(3) 予算・決算

平成19年度決算、平成20年度予算の承認および平成21年度予算案の作成を行った。

(4) 各SCの活動

1) SC17

SC17においては、国際規格投票の件数も多く、国際会議に積極的に参加し活発な活動を行った。更に、国際役職として、WG3/TF4コンビナ、WG10セクレタリ、WG1、WG4およびWG8のプロジェクトエディタ、SC17総会起草委員を務め、わが国のこの分野における貢献度の向上に引き続き努めている。わが国が目指す産業競争力強化の一環として、重点TCのひとつとして各種カードの要素技術から利用システムに関わる提案を行ってきた。アクセシビリティに関連する日本提案のISO/IEC 7811-9、識別カードー第9部：TIM（Tactile Identifier Mark、触覚識別記号）が、6月にISとして発行された。また、ETA（Enhanced Terminal Accessibility、カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上）の新規提案が承認され、ISO/IEC NP 12905として標準化が開始されている。

2) SC28

SC28においては、6月に28総会をベブリンゲン市（ドイツ国）で開催した。参加人数は9カ国、45名を数え、成功裡に終了した。今回、Oメンバーのロシアから参加があった。日本が主導的に活動しているAWG(Advisory Working Group)では、正式にad-hoc groupとして、AWG/PWG5(日本・仲谷氏主査)、AWG/PWG6(日本・臼井氏主査)の設置が承認された。

10月には、JTC1総会（奈良）にて、SC28のビジネスプラン及び活動報告を斎藤議長が行った。昨年度 Fast Track提案したIS X8341-5 高齢者・障害者等配慮設計指針第5部は、6月に、ISO/IEC 10779としてIS発行された。又、Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipmentを新規提案し、ISO/IEC TR 29186としてプロジェクトがスタートした。

3) SC35

SC35においては、WG (WG1, 2(7含む), 4, 6) の審議はJBMIA、SC35 (WG5, 8含む) の案件審議は情報処理学会という役割分担であるが、実質的な審議はJBMIA内で開催するWGとの合同委員会において行われている。平成20年度は、特に日本提案のアクセシビリティに関する2件、アイコンデータベースに関する1件の規格の審議のため、WG2,WG6関連の委員及び関係者が国際会議（ナポリ及びベルリン）に多数出席するとともに、実質的な国際規格原案の作成を行うなど活発な活動が行われた。

(5) JIS化作業

JIS化作業の積極的支援を行った。

- ・ カラー電子写真式プリンタ及びプリンタ複合機のトナーカートリッジ印刷可能枚数測定方法 (ISO/IEC 19798 IDT) : 制定
- ・ カラーインクジェット方式のプリンタ及び複合機のインクカートリッジ印刷可能枚数測定方法 (ISO/IEC 24711 IDT) : 制定
- ・ 事務機械消耗品の印刷可能枚数測定用カラーテストページセット (ISO/IEC 24712 IDT) : 制定
- ・ JIS X 6305-1:2003 識別カードの試験方法 — 第1部：一般的特性の試験：改正
- ・ JIS X 6305-2:2003 識別カードの試験方法 — 第2部：磁気ストライプ付きカード：改正

(6) 表彰

表彰規定により以下の各氏を表彰した。

坂本静生氏（日本電気）、佐藤勇樹氏（松下電器産業）、
渡邊和夫氏（パナソニックコミュニケーションズ）、酒井英典氏（リコー）、
堀井和哉氏（セイコーエプソン）、藤田徹氏（セイコーエプソン）、
村上厚氏（東芝）、山本喜一氏（慶應義塾大学）、
中尾好秀氏、牧野忠由氏（松下電器産業）、
谷内田益義氏（東京工業大学）、大根田章吾氏（リコー）、松原幸行氏（キヤノン）

1-2 今後の主要課題

- (1) 国際的信頼を得るため、引き続きJTC1/SC28幹事国業務を全面支援する。
- (2) 各SC、WGの規格審議を支援する。
 - ・ 社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業の受託
 - ① カードシステム端末利用におけるアクセシビリティの向上（SC17、継続）
 - ② ハードコピー出力の画質属性測定方法の標準化（SC28、継続）
 - ・ 基準認証研究開発事業（JSA/INSTAC）への公募
 - ① モバイル機器等の十字キーインタラクションに関する標準化（SC35、継続）
 - ・ 国際会議への積極参加

延べ150名の派遣を予定

(3) JIS化作業の積極的支援を行う。

- ・ JIS X 6302-6:2005 識別カード—記録媒体—第 6 部:磁気ストライプ—高保持力 : 改正
- ・ JIS X 9303-5 情報技術—ユーザシステムインタフェース及びシンボル—アイコン及び機能 —
第 5 部 : ツールアイコン : 制定 (ISO/IEC 11581-5 対応) (継続)
- ・ デジタル印刷における生産性測定方法 (ISO/IEC 24634:2009) : 制定
- ・ デジタル複写における生産性測定方法 (ISO/IEC 24635:2009) : 制定
- ・ アクセシビリティ設定のためのアクセシブルなユーザーインタフェース (ISO/IEC FDIS 24786) : 制定

(4) 活性化施策を実行する。

- ・ ホームページの充実と活用
- ・ アジア太平洋地域各国との連携強化の方策を検討

(1) 活動概況 (SC 17 全般及びロンドン総会)

ISO/IEC JTC1/SC17は、カードと個人識別を対象とし、各種カードの要素技術から利用システム(クレジット・IC 旅券・運転免許証等)までを含む国際互換性に関する標準化と登録管理を担当している。SC17 国内委員会には、国際 WG (WG1~WG11) に対応する国内 WG に加えて、国内関係機関との連携強化を図るためのサブ WG を設置している。SC17 とこれらの WG 及びサブ WG は単独または共同で、更に、関係委員会・関係機関と連携して国際標準化を推進している。

後述の国際役職貢献とともに国際貢献の一環として例年どおり、林 義昭幹事長原案・木澤 誠顧問監修の日本国ナショナルレポートを SC17 総会に提出した。本年度は、

- ・ 公的システムにおけるカード技術の利用として、IC 旅券発行実績の急増、入国審査時の IC 旅券と電子署名確認、ISO 準拠運転免許証の発行拡大
- ・ カードシステムのバリアフリー化を目的とした、TIM (Tactile Identifier Mark) の普及活動及び ETA (Enhanced Terminal Accessibility) の国際標準化提案

を紹介した。

前年度に引続き日本意見の反映を優先課題とし、ISO 国際会議派遣旅費の支出削減を行なうよう運営しつつも後継者育成の機会創出も意識し、SC17 総会と各 WG 国際会議、TF 国際会議及び SC 間・WG 間合同国際会議に委員が積極的に出席し、国際規格の制定活動に貢献した。

第 21 回 SC17 総会はロンドン (英) で開催され、わが国からは後述の 8 名が出席した。

本年度も、日本提案の NWI について国内外関係機関と連携して推進に努めるとともに、IC 旅券・運転免許証に関する標準化活動を主導している。

日本が NWI 提案を行ない、中澤 明氏がプロジェクトエディタを務めた ISO/IEC 7811-9 (Tactile Identifier Mark [TIM]) は 2008 年 6 月に国際規格として制定された。

WG3/TF4 (IC 旅券の試験方法) では榊 純一氏が引続き国際コンビナを務め、IC 旅券に関する国際互換性確保のための活動を推進している。また、WG10 (自動車運転免許証と関係書類) では榊 純一氏が国際セクレタリを務め、運転免許証に関する国際標準化を推進している。

WG4 (IC カード) ではアメリカ提案の ISO/IEC 24727 (IC カードプログラミング・インタフェース) シリーズについて、日本国内の公的な IC カードシステムがこの規格の範囲内でも稼動可能であり、また将来の発展を阻害しないような機能を持つように試験規格も含めた審議に継続して参加している。更に日本提案の ETA (Enhanced Terminal Accessibility) は 2008 年 10 月に NWI として承認され、ISO/IEC 12905 として標準化が開始されている。

WG8 (非接触 IC カード) では実験データに基づく提案によって ISO/IEC 14443 シリーズの改訂に貢献している。

また、次節に示すようにカードの用途別耐久性評価に関する検討及び非接触 IC カード関連のハーモナイゼーションで新たな活動を始めている。

(2) 国内委員会体制の特記事項

SC17 国内委員会体制のうち国際 WG11 (カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用) 案件に関しては、2006 年度の体制見直しの結果に基づきサブ WG (WG4/SWG4、主査 坂本 静生氏) を国際 WG4 案件である ISO/IEC 7816-11 (IC カードー第 11 部：生体認証手法を用いた個人照合) 及び国際 WG11 案件への対応国内体制と位置付け両 WG の連携を強化している。

更に、2008年度はSC17国内委員会の直下に二つのサブWGを新設している。

国際WG1案件であるISO/IEC 24789（カードサービスライフ）シリーズ（用途別の耐久性を評価するための方法）への対応のためのサブWG（SC17/SWG A、主査 谷内田 益義氏）を設置し、メーカーのみでなくユーザ団体の意見も反映するための体制を強化している。

ISO/IEC JTC1/SC6（通信とシステム間の情報交換）が担当するNFC（Near Field Communication 近距離無線通信）シリーズと国際SC17/WG8が担当するISO/IEC 14443（近接型非接触ICカード）シリーズとのハーモナイゼーションへの対応のためのサブWG（SC17/SWG B、主査 荻部 浩氏）を設置し、これまでの国内WG8委員にSC17国内委員会の関係委員も加え応用システム面からの意見も反映するための体制を強化している。

2008年4月には、国内WG10（自動車運転免許証等）の主査が牧野 忠由氏から榎 純一氏に交代した。ここに、国内SC17及び発足当初からの国内WG10で多大な貢献をされた牧野氏の功績に敬意と感謝を表したい。

なお、上記以外で対応国内委員会を設置していない国際WG7（金融取引カード）案件、対応国内委員会が休会中の国際WG9（光メモリカード）案件及びSC17共通事項への対応案はSC17国内運営委員会で策定している。

また、SC17国内委員会会議・同運営委員会会議の年間開催予定を技術委員会（JTC1国内委員会）に連動するよう設定することによって、各WGでの案件審議時間を柔軟に確保できるようにしている。

(3) 国際会議の開催及び出席者数等

1) SC17総会（ロンドン[英]、2008年10月10日～12日）

参加国数/出席者数：18カ国、4リエゾン/計59名（以下本項では敬称略）

議長（Richard Mabbott, 英）、セクレタリ（Chris Starr, 英）、

豪、オーストラリア、ベルギー、加、中、フィンランド、仏、独、日（森田 信輝[METI/JISC]、廣川 勝久[SC17/ECSEC]、谷内田 益義[東工大/リコー]、中澤 明[日本電産サンキョー]、

寄本 義一[凸版印刷]、井出野 敦弘[全銀協]、荻部 浩[JBMIA]、坂本 静生[NEC]）、

韓、マレーシア、蘭、ニュージーランド、シンガポール、南ア、西、英、米

リエゾン: Visa, MasterCard, ICMA, JTC 1/SC 31

2) 各WG等の国際会議回数及び出席者

WG1（3回7名）、WG3（1回1名）、WG4（4回9名）、WG5（1回1名）、WG8（SC6とのハーモナイズ含む、5回20名）、WG10（3回12名）、WG11（1回1名）、その他ICAO等（5回10名）であった。

なお、WG10対応については、（社）新交通管理システム協会に委託の上合同で推進中である。

3) 規格投票件数

本年度に行った規格への投票は、以下のとおりである。

NP：3件、CD：15件、FCD：8件、DIS：0件、FDIS：15件、IS成立：17件

(4) 特記事項

年間の活動として、わが国が規格に反映するために努力した主要案件、今後影響を与える可能性のある案件は、次のとおりである。

a) わが国のSC17関連規格活動への役職貢献

わが国が目指す産業競争力強化のために、重点TCのひとつとして各種カードの要素技術から利用システムに関わる提案を行なうとともに、わが国の技術を規格に反映させるため次の国際役職を務めている（以下本項では敬称略）。

- ① WG3/TF4(IC 旅券の試験方法) コンビナ：榊 純一（パナソニック）－2004 年より継続
- ② WG10（自動車運転免許証と関係書類）セクレタリ：榊 純一（パナソニック）－2004 年より継続
- ③ WG1（ID カードの物理的特性及び試験方法）ISO/IEC 7811-9（Tactile Identifier Mark - TIM）プロジェクトエディタ：中澤 明（日本電産サンキョー）－2006 年就任、2008 年 6 月 IS が発行され任務を完了
- ④ WG4（IC カード）ISO/IEC 7816-1（外部端子付き IC カード：物理的特性）改訂プロジェクトエディタ：寄本 義一（凸版印刷）－2008 年就任
- ⑤ WG4（IC カード）ISO/IEC 7816-11（IC カード：生体認証手法を用いた個人照合）改訂プロジェクトエディタ：寄本 義一（凸版印刷）－2008 年就任
- ⑥ WG4（IC カード）ISO/IEC 12905（ETA：カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上）プロジェクトエディタ：寄本 義一（凸版印刷）－2008 年就任
- ⑦ WG8（非接触 IC カード）ISO/IEC 15693-1（近傍型非接触 IC カード：物理的特性）改訂プロジェクトエディタ：苅部 浩（JBMIA）－2008 年就任
- ⑧ SC17 総会の起草委員：廣川 勝久（SC17/ECSEC）－1995 年より継続

b) 「Tactile Identifier Mark (TIM、旧 Self-Mark)」の標準化

国内 SC17/WG1 は、ID-1 カードのエンボス領域の右下端に点字 3 文字分のスペースによる、視覚障害及び高齢のカード所持者自身が判断できるマーク（点字）を加工する方法につき、「共用品推進機構」と協力して国際標準化を推進した。日本からの NWI 提案は、中澤 明 WG1 国内主査（日本電産サンキョー）がプロジェクトエディタに就任して推進した結果、ISO/IEC 7811-9（識別カード－第 9 部：Tactile Identifier Mark [TIM、旧 7811-1/Amd1 Self-Mark]）として IS が発行された。

c) IC 旅券 (eMRP) の標準化

ICAO/NTWG が中心になり標準化を進めている IC 旅券 (eMRP) の技術レポート(ICAO-TR)作成に、わが国は外務省と共に積極的に参加して旅券への PICC(近接型非接触 IC カード)を利用した仕様策定に貢献してきた。国際的な運用では、このシステムを構成する IC 旅券及び読取装置の国際互換性のための統一仕様及び品質評価のための試験方法が必要となる。国際 WG3 では、試験方法に関する TF を設けて ICAO の協力の下に標準化を進めており、榊 純一 WG3 国内主査（パナソニック）が WG3/TF4 国際コンビナを務めている。IC 旅券の試験規格に関する ICAO 文書のうち RF インタフェースに関する部分の ISO/IEC 規格化は ISO/IEC 10373-6 の追補 (PDAM7) として作業が進められている。

d) ETA に関する関係国内委員会との連携

日本の NWI 提案に基づく ISO/IEC 12905 (ETA—Enhanced Terminal Accessibility) の標準化に際し、ISO/IEC JTC1/SC35 (ユーザインタフェース) 国内委員会との間で標準化内容の相互確認を行ない各々の標準化範囲と共通部分の整合性確保を図っている。

e) ACBio に関する関係委員会との連携

ISO/IEC JTC1/SC27 (情報セキュリティ) で日本提案に基づき審議中の ISO/IEC 24761 (ACBio—Authentication Context for Biometrics) については、IC カードに適用した場合に必要なコマンド機能等に関する連携を継続している。

f) バイオメトリクス応用への対応

シンガポール提案に基づく、カード上で生体情報（指紋等）の入力・照合を行うための作業項目 (ISO/IEC 24787) は CD 段階での検討が継続されている。本規格への対応にあたっては、ISO/IEC

JTC1/SC37 (バイオメトリクス) ・同 SC27 (情報セキュリティ) との連携が必要であるとともに、SC17 内でも複数 WG の連携が必要である。

このため、国内では前述のとおりサブ WG (WG4/SWG4) を編成し、国内の関係活動への影響をも考慮しつつ対応している。

g) 非接触 IC カード関連のハーモナイゼーション

ISO/IEC 14443 シリーズと NFC シリーズのハーモナイゼーション (相互動作可能な条件の調整など) については、2008 年 9 月に開催された SC17 Ad Hoc 会議での検討結果に基づき 2008 年 10 月の SC17 ロンドン総会で推進する方針が決議された。一方、2008 年 11 月の SC6 総会では Study Group の設置が決議された。その後開催された JTC1 奈良総会において SC6 Study Group に SC17 からエキスパートが参加のうえでハーモナイゼーションの検討を行なうよう決議されている。

このため前述のように SC17/SWG B を設置し対応検討を行なうこととしている。

(5) 来年度への重要な課題

- ① IC カード等に関する基本的な要素技術以外で、ISO/IEC 24727 シリーズのように利用システムに関わる標準化が求められている。その一方で、利用システムからの要求に基づき要素技術についても機能や性能に関わる追加提案が増加する傾向が本年度も続いている。今後、カードの製造・発行・利用に係わる関係機関・関係企業のより積極的な理解と参画を得て、利用者個人も含めた各関係者の利益を考慮しつつ、わが国の技術力を踏まえた要素技術と利用技術の両面からの対応を継続していく必要がある。
- ② IC 旅券の国際試験仕様 (耐久性・プロトコル) について、ICAO 文書の ISO/IEC 規格への変換を含めて継続的に対応する。
- ③ 日本提案に基づき制定された ISO/IEC 7811-9 (TIM) の普及を推進する。
- ④ ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ) シリーズ (用途別の耐久性を評価するための方法) について、わが国の技術を踏まえユーザの意見も反映しつつ対応を行なう。
- ⑤ 利用者にとって“inter-industry”等の用語がよりわかりやすくなるよう、ISO/IEC 7812 (識別カードー発行者の識別) シリーズの改定等を行う。
- ⑥ ISO/IEC 14443 (識別カードー外部端子なし IC カードー近接型) シリーズと NFC (Near Field Communication 近距離無線通信) シリーズとの調和性に関して ISO/IEC JTC1/SC6 との連携を検討する。
- ⑦ 国内では 2007 年 1 月から IC 化運転免許証の運用が開始されており、国内外の動向を踏まえた ISO/IEC 18013 (ISO 準拠運転免許証) シリーズの規格化を継続する。
- ⑧ 日本意見を反映した国際標準化のためのエキスパート養成が急務であり、そのための環境造りを検討する。また、SC17 総会の 2010 年日本 (高松) 開催への対応準備を進める。

1-3-1 SC17/WG1 (ID カードの物理特性及び試験方法)

主査 中澤 明

(1) 活動状況

1) WG1 国際会議は以下のように 3 回開催され、それぞれの会議に 2 名~3 名が参加した。

2008年06月03日～04日 Harrisburg (USA)
2008年10月06日～08日 London (UK)
2009年03月03日～05日 Singapore (Singapore)

2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ・ 用途別の耐久性を評価するための方法を規定する「カードサービスライフ」の検討を行い、ISO/IEC 24789-1 及び ISO/IEC 24789-2 として CD 投票を行った。各国から多数のコメントが寄せられたことから FCD 投票に移行せず 2 回目の CD 投票をおこなうこととなり、投票案の検討を継続しておこなった。2 回目の CD 投票は、2009 年 06 月に開始予定。
- ・ 日本より提案の TIM（カード種別等を識別するためにカード上に突起を配したもの）の検討を行い、IS 段階に進めた。日本からも共同エディタとして規格制定に協力した。
- ・ ID カードの物理的特性（ISO/IEC 7810）に IC カードの項目を盛り込むべく検討をおこなった。これに対応する試験方法（ISO/IEC 10373-1）についても検討を着手した。
- ・ 中保磁力（51.7kA/m）磁気ストライプ（ISO/IEC 7811-8）を検討し、IS 段階に進めた。
- ・ 薄型カード（ISO/IEC 15457 シリーズ）の定期見直し作業を行い IS（パート 1，3）段階に進めた。

3) 国内会議

- ・ 国内 WG1 会議は、課題の検討のために月 1 回のペースで実施した。
- ・ (2) 項の各種課題に対する対応方針の検討及び投票案件の審議等をおこなった。

(2) 今後の主要課題

- ・ カードサービスライフに対する諸課題（試験回数、判定基準、プロファイルの設定等）に対し、日本から試験カードを提供し各国で評価をおこない回数の妥当性を見出す活動をおこなうと共に、SWG A 等を通じ日本の各メーカ及びユーザの意見を国際規格に反映すべくコメントのとりまとめをおこなう。

(3) 特記事項

- ・ TIM を普及させるため、経済産業省のプレスリリースをはじめ、関係者への説明をおこなう等プロモーション活動を展開した。
- ・ カードサービスライフに対し、ユーザを含めた多くの関係者のご意見をいただき、国際の場に日本意見を反映させるべく、SC17 の直下に SWG A を設け、WG1 における審議経過や CD 案に対する審議をおこない、国際会議での日本コメントに反映させた。

(4) 平成 21 年度の国際会議の予定

2009 年 06 月 Paderborn (Germany)
2009 年 09 月 北京 (中国)
2010 年 03 月 場所未定

1-3-2 SC17/WG3（機械可読渡航文書：MRTD）

主査 榊 純一

(1) 活動状況

- 1) SC17/WG3 国際会議及び配下のタスクフォース（TF）会議は下記のように開催された。

- (注) WG3/TF1 : ICAO-TAG-NTWG (新技術 WG) の対応 WG
 WG3/TF2 : ICAO-TAG-DCFWDG (文書化 WG) の対応 WG
 WG3/TF3 : ICAO-TAG-EPWG (教育・広報 WG) の対応 WG
 WG3/TF4 : 試験仕様
 WG3/TF5 : PKI 仕様

2008年05月26日～28日	Ottawa(Canada)	WG3、TF1、TF5
2009年03月04日～05日	Hague(The Netherlands)	TF5

2) またリエゾン関係にある ICAO 関連会議は下記の 5 回開催された。

2008年04月01日～02日	Paris(France)	ePassport EAC Test
2008年05月05日～07日	Montreal (Canada)	ICAO-TAG-MRTD
2008年09月07日～12日	Prague(Czech Republic)	ePassport EAC Test
2008年09月23日～26日	Bern(Switzerland)	ICAO-TAG-NTWG
2009年03月25日～27日	Brussels(Belgium)	ICAO-TAG-NTWG

(2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ISO/IEC 7501-1 3rd Edition
 ICAO が定めた IC 旅券の国際規格は、ICAO Doc 9303-1 の第 6 版として 2006 年 9 月に発行され、2006 年 3 月から発給を開始したわが国を始め、現在 60 カ国を超える国々がこの国際標準に準拠した IC 旅券の発給を始めている。ICAO の予測によれば 2010 年には 100 カ国に及ぶ見通しである。ICAO Doc 9303-1 第 6 版の ISO 版となる ISO/IEC 7501-1 第 3 版は 2008 年 8 月 18 日に発行された。
- Supplement Doc 9303 の更新 (ICAO の補足文書)
 Doc 9303 Supplement Release 7 が完成、日本からのコメントは全て採用されており ICAO サイトにおいて公開されている。現在 Release-8 の編集が行われている。
- テスト仕様 (TF4)
 RF&Protocol パート 2、パート 4
 SC17/WG8 に移管され、ISO/IEC 10373-6 の追補 (PDAM7) として作業が進められている。
 Durability、RF&Protocol パート 3
 NP 兼 CD 投票を開始することが 2007 年の SC17 総会で承認されているが、現在手続は保留中。
- PKD(Public Key Directory)実施の問題
 PKD をリニューアルし、DS (Document Signer) 証明書ではなく、CSCA (Country Signing Certificate Authority) マスターリストを置くという変更提案は 5 月の MRTD-TAG/18 総会で承認された。マスターリストは無料でダウンロード可能である。但し ICAO 理事会でマスターリストの導入を記載した規定が承認されるまでは運用されない。
- ICBWG (Implementation and Capacity Building Working Group) の設立
 ICAO 内に新しい作業部会が設立され、2008 年 10 月 9-10 日に初会合が開催された、目的や議論のテーマなどが議論されている。
- BAC 拡張提案
 BAC のエントロピー不足やプライバシー保護の増強を目的に、ドイツより PACE という PIN 認証を応用した新たな仕組みが提案されており、技術的可能性を ISO 側 (SC17/WG3/TF5) で

行うことになっている。実質審議は今後の課題となっている。

(3) 今後の主要課題

- **LDS Ver-2**
米国の政府メンバーを中心としてどのような要求定義とするかを調査中。今後各国にたいしてアンケートを実施するなどして強権を絞り込んでいく。
- **e-Visa**
現時点では進展がなく、4方式（既存のIC旅券チップへの追記、チップ入りステッカーの貼り付け、別カード、メディアを使用しない方式）の結論は先送りのまま。
- **EAC（拡張アクセス制御）**
EU委員会では2009年6月28日までにEU加盟国に対してPassportに指紋（2指）の記録を義務づけており、ドイツ、フランスなどがこの仕様に基づいた旅券の発給を開始している。他のEU諸国も期限内に発給を開始することを発表している。ICAOはEAC規格をICAO規格として採用せずに静観している状況。

(4) 2009年度の国際会議の予定

SC17/WG3 会議

2009年06月	未定	SC17/WG3、TF1、TF3、TF4、TF5
2009年09月	Beijing (China)	SC17/WG3、TF5

ICAO 関連会議

2009年09月21～23日	Montreal(Canada)	ICAO-TAG シンポジウム
2009年10月19～23日	Sidney (Australia)	ICAO-TAG-NTWG
2009年12月07～09日	Montreal(Canada)	ICAO-TAG 総会

1-3-3 SC17/WG4（端子付ICカード）

主査 寄本 義一

及び SWG4（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）

(1) 活動概況

1) 国際会議開催状況

日本は次の様に3回のWG4及びWG4/Ad Hoc及びWG4/Expertの計5回の国際会議に参加した。また、WG11 Biometrics Applicationに関する標準化の審議はWG4/SWG4で行っていることから、今期のWG11の活動も含んで報告する。WG11は、1回の国際会議に参加した。

2008年04月14日～18日	Sydney (Australia)	WG4
2008年09月29日～10月03日	London (UK)	WG4
2008年09月12日～14日	Madrid (Spain)	WG11
2009年01月13日～14日	Berlin (Germany)	WG4/ISO/IEC 7816-4Ad Hoc
2009年01月15日	Berlin (Germany)	WG4/ETA Expert
2009年03月02日～06日	Paris (France)	WG4

2) 国際会議の審議状況と主要成果（NP提案の国際投票結果を含む）

WG4 においては、ISO/IEC 24727-2 から-4 までが IS となり、このシリーズでは残すのが ISO/IEC 24727-5 及び-6 となった。ただ、また、追加された ISO/IEC 24727-5 試験方法では、各パートのこれらの未解決部分が浮き彫りされる可能性がある。日本は当初、ディスクバリ機能がこのシリーズの特徴であるので、この部分の試験と各コンポーネントの接続性が主要な試験であると主張してきたが、IC カード機能の細かい試験が記載されていた。その後日本の主張に沿って多少改善されてきたが、まだ項目のタイトルだけの部分も残っていることを含め、CD としての体裁をとっていない状態である。

本年度日本から提案した NWI 及び改訂要求は次のとおりである。

- **NWI Enhanced Terminal Accessibility(ETA) using cardholder preference interface** (カード所持者に合わせた端末利用におけるアクセシビリティの向上)は、10 月 1 日に合意され、1 月 15 日のベルリン専門者会議で規格のまとめ方の方針が話し合われ、6 月のオースチン会議で CD 投票とするかどうかの審議を行う。なお、ISO/IEC 12905 が与えられ、エディタは、日本と英国。技術委員会で本件の NWI 投票審議時、端末のアクセシビリティの国際規格を策定している国内 SC37 山本委員長より、リエゾン関係を結びたいとの提案があり、その後、相互の会議等で情報交換を行い、ETA の国際規格に反映を試みている。
 - ISO/IEC 7816-1:1998 は、長い間改訂されず、また、カード表面からの IC モジュールの浮き出し高さを従来の 50µm から 100µm とした ISO/IEC 7816-1:1998/Amd 1:2003 があることから、ロンドン会議にて日本より改定することを提案、エディタは日本となった。英国の助けを借りて、パリ会議の審議にて CD 投票を行うことになった。
 - ISO/IEC 7816-4:2005 は、JIS に翻訳するときによくの編集上の誤りや明確でない記述があることがわかり、シドニー会議にて、日本よりコメントを提出して改定を要求した。次のロンドン会議にて改定が決定され、1 月のベルリン Ad Hoc 会議で審議が始まった。10 月のバルセロナ会議で CD 投票するかどうかの審議を行う。
 - ISO/IEC 7816-11:2004 は、以前のシンガポール会議で Defect Report を提出していた。その後、バイオメトリクス関連の ISO が制定されるにつれて、IC カードの機能に、それらの要求を加える必要が出てきた。そこで日本は、経産省基準認証事業によりニューメディア開発協会で検討された PERFORM BIOMETRIC OPERATION(PBO)コマンドをパリ会議に提出し、改訂を要求し受諾された。PBO コマンドの INS は'2B'が与えられ、エディタは、日本とドイツが選出された。
 - ISO/IEC 7816-13:2007 は、日本が提案した規格であるが、発行後いくつかの誤りが発見され、シドニー会議に Defect Report 及び若干のコメントが提出されたが、次のロンドン会議で、それらが受諾され、SC17 セクレタリに提出されることになったが、その後の動きがなく問い合わせ中である。
- 3) WG11 においては、ISO/IEC 24787 の CD2 投票が行われたが、まだ、多くの解決しなければならない問題が残っており、9 月のマドリッド会議で CD の再々投票とすることになった。
- 4) WG4 関連の国際規格のこの一年の動向
- **ISO/IEC 7816-1 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Integrated circuit(s) cards with contacts – Part 1: Physical characteristics**
 - ① 日本からの改版提案で、日本が改版エディタとなり、パリ会議で CD 投票案が承認され、CD 投票が開始された。
 - **ISO/IEC 7816-2 Identification cards — Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 2:**

Dimensions and location of the contacts

- ① ISO/IEC 7816-2:2007 として発行された。本年度は審議がなかった。
- **ISO/IEC 7816-3 Identification cards – Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 3: Electronic signals and transmission protocols**
 - ① ISO/IEC 7816-3: 2006 として発行された。本年度は審議がなかった。
- **ISO/IEC 7816-4 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 4: Organization, security and commands for interchange**
 - ① ISO/IEC 7816-4: 2005 として発行された。
 - ② ロンドン会議において、日本からの提案で改版が受諾され、1月のベルリン Ad Hoc 会議から改版作業が始まった。また、その続きがパリ会議で継続され、日本からのコメントを含む各国からのコメントがテキストに反映された。また、ISO/IEC 7816-4:2005 Amendment 1:2008 DEACTIVATE RECORD command. 及び合意された NP Enhancement of Card Capability Description with respect to extended length fields が、テキストに反映されている。特にデータオブジェクトを従来のファイルと同等に取り扱えるようにするなど、IC カードの新しい市場に向けての機能の追加や、セキュリティの向上などの課題もあり、もう一度 Ad Hoc 会議を 5 月末のオースチン会議後に開催し、10月のバルセロナ会議で CD 投票にかけるかどうかの審議を行うことになった。
- **ISO/IEC 7816-5 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 5: Registration of Application providers**
 - ① ISO/IEC 7816-5: 2004 として発行された。
 - ② 本年は、何の審議も行われなかった。
- **ISO/IEC 7816-6 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 6: Interindustry data elements for interchange**
 - ① ISO/IEC 7816-6: 2004 として発行された。
 - ② 日本の Defect Report 及制定された ISO において使用されている追加が必要なデータ要素などがあること、また、今後、3 バイトタグなどの対応を検討することで改版することがパリ会議で決定した。10月のバルセロナ会議にて、CD 投票にかけるかどうかの審議を行う予定。
- **ISO/IEC 7816-7 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 7: Commands for SCQL**
 - ① 本年度は、審議も投票もなかった。規格凍結とする案があるが、具体的な動きはまだない。
- **ISO/IEC 7816-8 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 8: Commands for security operations**
 - ① ISO/IEC 7816-8: 2004 として発行された。
 - ② ドイツからの提案の Enjance Authentication Command があり、改版することが、パリ会議で決定した。10月のバルセロナ会議にて、CD 投票にかけるかどうかの審議を行う。
- **ISO/IEC 7816-9 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 9: Commands for card management**
 - ① ISO/IEC 7816-9: 2004 として発行された。
 - ② NP Enhancement of the ISO/IEC 7816-9 card management services with functions for the management of key and password attributes などがあることから、パリ会議

で改版が決定した。10月のバルセロナ会議にて、CD投票にかけるかどうかの審議を行う。

- **ISO/IEC 7816-10 Identification cards – Cards with contacts – Part 10: Electrical interface for synchronous cards**
 - ① 本年度は、審議も投票もなかった。規格凍結とする案があるが、具体的な動きはまだない。
- **ISO/IEC 7816-11 Integrated circuit(s) card with contacts – Part 11: Personal verification through biometric methods**
 - ① ISO/IEC 7816-11: 2004として発行された。
(日本から2006年2月のシンガポールWG4会議にDefect Reportを提出。また2009年3月のパリWG4会議でPBOコマンドを提案。両方とも受諾された。日本とドイツがエディタに選定された。)
- **ISO/IEC 7816-12 Integrated circuit(s) card with contacts – Part 12: USB interface and operating procedures**
 - ① ISO/IEC 7816-12: 2005として発行された。
 - ② NP Amendment to ISO/IEC 7816-12 -Identification cards – Integrated circuit cards – Part 12: Cards with contacts: USB electrical interface and operating procedures.は、成立したが、本年度の審議はなかった。
- **ISO/IEC 7816-13 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 13: Commands for Application management in multi-application environment**
 - ① ISO/IEC 7816-13: 2007として発行された。
 - ② シドニー会議にて、日本よりDefect Report及び若干のコメントの提案をおこない、各国のコメントを求めたが、追加されるものはなかった。ロンドン会議でSC17に提出されたが、その後の動きがなく、日本より状況を問い合わせ中。
- **ISO/IEC 7816-14** は、現在使用されていない。
- **ISO/IEC 7816-15 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Part 15: Cryptographic information application**
 - ① ISO/IEC 7816-15: 2004として発行された。
 - ② ISO/IEC 7816-15 /AMD1:2007として発行。
 - ③ ISO/IEC 7816-15 /AMD2:2008として発行。
- **ISO/IEC 10373-3 Identification cards — Test methods — Part 3: Integrated circuit(s) cards with contacts and related interface devices**
 - ① FCD成立も、ドイツより端末の電気パラメータに問題があるとのコメントがあったために2nd FCD投票中
- **ISO/IEC 10373-8 Identification cards — Test methods — Part 8: USB-ICC**
 - ① CD投票では、日本のコメントのみであった。コメントは殆どが編集上の誤りであり、唯一の問題となったコメントは、ISO/IEC 7816-12/Amd1の試験も一緒に審議するほうがよいというものであったが、その審議が進んでいない状況なので、そのコメントを取り下げた。従って、すべて解決となりFCD投票が開始された。
- **ISO/IEC 24727-1 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 1: Architecture**
 - ① ISO/IEC 24727-1: 2007として発行された。

- ・ **ISO/IEC 24727-2 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 2: Generic card edge**
 - ① ISO/IEC 24727-2:2008として発行された。
 - ・ **ISO/IEC 24727-3 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 3: Application interface**
 - ① ISO/IEC 24727-3:2008として発行された。
 - ・ **ISO/IEC 24727-4 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 4: API administration**
 - ① ISO/IEC 24727-4:2008として発行された。
 - ・ **ISO/IEC 24727-5 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 5: Testing**
 - ① エディタがオーストラリアと決まり、作業を開始した。2nd CD投票中であるが、まだ項目タイトルのみで空欄が多くCDとしての体裁をなしていない。日本は、反対投票。
 - ・ **ISO/IEC 24727-6 Identification cards – Integrated circuit(s) cards – Programming interfaces-Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols**
 - ① エディタがオーストラリアと決まり、作業を開始した。FCD投票中であるが、テキスト中にまだ、CD段階のISO/IEC 24727-5の記述があり、日本は条件付反対投票。
 - ・ **ISO/IEC 24749-1 Secure Integrated Circuit Card Transaction Device — Part 1: General architecture**
 - ① WDとして提出されているが、審議したTF10主査が退任したが、その後のWG4,SC17総会では何の決定もなかった。本年度も審議がないことから取り下げとなるものと思われる。
 - ・ **ISO/IEC 20060-1 Identification cards – Integrated circuit(s) cards –**
 - ① ISO/IEC20060-1:2001として発行された。
 - ② ISOテキストとしての体裁を整え、DIS投票中。
 - ・ **ISO/IEC 12905 Integrated circuit cards –Enhanced Terminal Accessibility (ETA) using cardholder preference interface**
 - ① 5月末のオースチン会議にてCD投票を行うかどうかの審議を行う。
- 5) WG11 関連の国際規格のこの一年の動向
- ・ **ISO/IEC 24787 Personal identification – Identification cards – On-card Biometric Comparison**
 - ① CD2投票にかけられた後、SC 37からも含む各国からの多くのコメントを受けて(日本は条件付反対)、CD3投票になった。CD3投票でも日本は条件付反対で投票済み。
- 6) 国内会議
- 国内 WG4 会議は、1 ヶ月に 1 回の間隔で実施。担当の国際標準規格の各パートの検討のため、次の 7 つの SWG に分けて審議を行った。
- SWG1: ISO/IEC 7816 Part1, Part2, ISO/IEC 10373-1 担当
 - SWG2: ISO/IEC 7816 Part3, Part 10, Part 12, ISO/IEC 20060, ISO/IEC 10373-3 担当
 - SWG3: ISO/IEC 7816 Part4, Part5, Part6, Part7, Part8,担当
 - SWG4: 国際 WG11 窓口。ISO/IEC 7816 Part11、ISO/IEC 24787 担当
 - SWG5: ISO/IEC 7816 Part9, Part13, Part15 担当

- SWG6: TF9 担当。ISO/IEC 24727 Part1, Part2, Part3, Part4, Part5, Part6 担当
 SWG7: TF10 担当。ISO/IEC 24749 Part1, ISO/IEC20060 (平成 18 年度新設)

(2) 今後の主要課題

次の課題を行う。

- (ア) ISO/IEC 7816-1 の改訂作業。
- (イ) ISO/IEC 7816-4 の改訂作業
- (ウ) ISO/IEC 7816-6 の改訂作業
- (エ) ISO/IEC 7816-8 の改訂作業
- (オ) ISO/IEC 7816-9 の改訂作業
- (カ) ISO/IEC 7816-11 の改訂のため、正誤表を反映・新規 PBO コマンド追加を行う。
- (キ) ISO/IEC 7816-13 の改訂提案
- (ク) ISO/IEC 10373-3 の FCD 投票審議。
- (ケ) ISO/IEC 10373-8 の FCD 投票審議。
- (コ) ISO/IEC 24727-5 の FCD 以降の審議。
- (サ) ISO/IEC 24727-6 の CD 以降の審議。
- (シ) ISO/IEC 24787 の CD 投票の審議。
- (ス) ISO/IEC 20060 の CD 投票の審議
- (セ) ISO/IEC 12905 の CD 投票準備

(3) 2009 年度国際会議予定

2009 年 04 月	Austin (USA)	WG11
2009 年 05 月 25 日～29 日	Austin (USA)	WG4
2009 年 07 月か 08 月	場所未定	WG4/Ad Hoc
2009 年 08 月	(未定)	WG11
2009 年 10 月 05 日～09 日	Balcerona(Spain)	WG4
2010 年 03 月	場所未定	WG4

(4) その他

- ・ H20 年度経済産業省の委託研究として、「カードシステム端末利用におけるアクセシビリティの向上（障がい・高齢者などを対象としたアクセシブルデザイン）に関する調査研究(略称 CTA 委員会)」を受託し、寄本主査及び委員を中心に審議をおこなった。本年度は、NWI 提案を行い、可決され ISO/IEC 12905 Enhanced Terminal accessibility (ETA) using Cardholder preference interfac として審議が始まっている。エディタとして、寄本国内 WG4 主査と英国の Mr. Jim Reddell が選ばれた。
- ・ ISO/IEC 7816-1 の改訂エディタに寄本国内 WG4 主査が選ばれた。
- ・ ISO/IEC 7816-11 の改訂エディタに寄本国内 WG4 主査とドイツの Ms. Gisel Meister が選ばれた。

1-3-4 SC17/WG5 (カード発行者番号等)

主査 井出野 敦弘

(1) 活動概況

- 1) 国際会議は以下のとおり 1 回開催された。

2008年10月06日 London(UK)

2) 国際会議の審議状況

当グループは個人識別カードのカード発行者番号(ISO/IEC 7812)、ICカードの登録アプリケーション提供者識別子(ISO/IEC 7816-5)の登録管理を行っている。

利用者にとって“inter-industry”等の用語がよりわかりやすくなるよう、ISO/IEC 7812 (識別カード—発行者の識別) シリーズの改定等を行うこととし、SC17においてNWIとして了承された。

(2) 今後の主要課題

カード発行者番号 (IIN) の登録申請について、都度、審議する。

利用者にとって“inter-industry”等の用語がよりわかりやすくなるよう、ISO/IEC 7812 (識別カード—発行者の識別) シリーズの改定等を行う。

(3) 2009年度国際会議開催予定

2009年09月 北京 (中国)

1-3-5 SC17/WG8 (非接触 ICカード)

主査 荻部 浩

(1) 活動状況

2008年度は、3回のWG8国際会議及び2回のWG8/TF2の会議が開かれた。

2008年4月4～11日 東京 (日本) TF2#28/WG8#41 会議

2008年9月29～10月3日 London (UK) WG8 #42:会議

2008年11月10～14日 Graz (Austria) TF2 #29:/WG8 #43:会議

関連する会議として:

2008年9月3,4日 Berlin (Germany) NFC/14443 ハーモナイズ会議

わが国は、上記の会議すべてに出席した。それらの国際会議の前後に国内 WG8 会議を開き、提案資料の検討、投票に付すコメントの審議、国際会議の報告等を行った。

(2) 国際会議の審議状況

2008年度は、前年度から継続している非接触 IC カードの近接型 (ISO/IEC 14443 シリーズ, ISO/IEC 10373-6) 及び近傍型 (ISO/IEC 15693 シリーズ, ISO/IEC 10373-7) に関する5年見直し作業に終始した。この状況において、わが国は、投票時のコメント添付・寄書提出・国際会議での意見表明を通じて、投票段階の進捗及び規格文書の品質向上に貢献した。

1) 近接型

a. ISO/IEC 14443-1 (物理的特性) については、カードとしてプラスチック基材の物理的特性の ID カード (ISO/IEC 7810) と共通な項目を、非接触 IC カードの規格から削除し、ID カードのそれを参照することにした。さらに、非接触 IC カードの互換性向上のため、アンテナコイルの配置領域を定義し、“Class 1”カードとした。これらの改訂をして IS となった。

b. ISO/IEC 14443-2 (電力伝送及び信号インタフェース) は、特に互換性上の問題が発生しているため、磁界強度及び信号波形のパラメータにマージンを追加した。我が国は、信号波形のパラメータを詳細に確認する作業に実験データを持って貢献した。さらに、後方互換性を確保するために、伝送パラメータ(特に、信号波形の立上がり/立下がり時間に関する仕様)の見直し等の審議をつくり、やっと FCD に進めることができた。

- c. ISO/IEC 14443-3 (初期化及び衝突防止処理) は、この 5 年間に追加してきた追補の本体への組み込み及び編集上の修正を行ない、FCD に進んだ。
- d. ISO/IEC 14443-4 (伝送プロトコル) も、追補の本文への組み込みと編集上の修正が主である。内容的に問題点が少ないため、既に IS となった。
- e. ISO/IEC 10373-6 (試験方法—近接型) は、200 余ページの追補を本文に組み込んだ改訂版の作業をした。JIS 原案作成委員会にて詳細に検討した結果を、ISO/IEC 10373-6 の 5 年見直し作業に反映することができた。
- f. ISO/IEC 10373-6AMD7(機械可読渡航文書の試験方法)は、WG3 から WG8 に移管された規格で、非接触通信技術の専門として精査し、非接触 IC カードの試験方法の分冊として規格化した。

2) 近傍型

- a. ISO/IEC 15693-1 (物理的特性) は、ISO/IEC 14443-1 に準じて修正し CD 投票に進んだ。なお、この見直し規格のエディタは、日本が担当している。
- b. ISO/IEC 15693-3 (伝送プロトコル) は、AFI (応用分野の識別) の表に新分野を追加し、編集上の修正をし、FDIS に進んだ。
- c. ISO/IEC 10373-7 (試験方法—近傍型) は、編集上の修正のみであり、IS となった。

審議中のドキュメントの進捗状況

標準名	日本語名称	WD	CD	FCD	FDIS	IS
ISO/IEC 14443-1 (Rev)	近接型 物理的特性					○
ISO/IEC 14443-2 (Rev)	近接型 電波インタフェース			○		
ISO/IEC 14443-3 (Rev)	近接型 初期化、衝突防止			○		
ISO/IEC 14443-4 (Rev)	近接型 伝送プロトコル					○
ISO/IEC 10373-6 (Rev)	近接型 試験方法		○			
ISO/IEC 10373-6AMD7	機械可読渡航文書の試験方法			○		
ISO/IEC 15693-1 (Rev)	近傍型 物理的特性		○			
ISO/IEC 15693-2 (Rev)	近傍型 電波インタフェース					○
ISO/IEC 15693-3 (Rev)	近傍型 伝送プロトコル				○	
ISO/IEC 10373-7 (Rev)	近傍型 試験方法					○

備考；○：2008 年度中に処理が進んだ状態。

(3) 今後の課題

- a. 超高速伝送の方式、ノイズマージン、同一磁界中の複数カード、小型アンテナサイズなどに関する提案があるが、まだ技術的検討段階で、更なる寄書を待っている。
- b. ISO/IEC 14443 シリーズと NFC(Near Field Communication 近距離無線通信)シリーズとのハーモナイズについては、SC6 にスタディグループを設け検討することになった。具体的な検討は 2009 年度になる。

(4) 次の国際WG8/TF会議の予定

2009 年 4 月 20～24 日	Singapore (Singapore)	TF2#30/WG8#44 会議
2009 年 9 月 14～18 日	北京 (中国)	TF2#31/WG8#45 会議

1-3-6 SC17/WG 9 (光メモリカード)

WG9 国内委員会は現在休会中であるが、国際 WG9 が活動中のため齋藤 WG9 国内主査を中心に SC17

国内運営委員会で必要な対応を行なっている（日本は WG9 国際会議には不参加）。

国際WG9ではホログラム記録方式に関する審議が行なわれ、ISO/IEC 11695 -Identification cards - Optical memory cards - - Holographic recording method第1部から第3部までが国際規格として発行された。FDISを通過した。またホログラム記録方式を含めた光記録技術と他の機械読取技術の共存 (ISO/IEC11693-2 - Identification cards - Optical memory cards - Part 2: Co-existence of optical memory with other machinereadable technologies.Optical memory cards - Part 2: Co-existence of optical memory with other machine-readable technologies.) に関する規格もFCDを通過し、FDIS段階に進んでいる。

なお、上記の Holographic recording methods (ISO/IEC 11695) に関しては、今後日本が参画する場合に支障の無いよう、国内の「ホログラム J I S 素案作成委員会」のご意見を伺い、光記録技術と機械読取技術の共存 (ISO/IEC11693-2) に関しては SC17/WG1 のご意見を伺い、投票に際して日本コメントを提出し、それらは受け入れられた。

今後の国際会議の主要課題としては、ISO/IEC 11695-4 - Part 4 Identification cards - - Optical memory cards - - Holographic recording method - Part 4: - Logical Data Structures のCD審議とホログラム記録を含めた光メモ리카ードのテスト方法(ISO/IEC 11693-5Part5)の検討がある。

1-3-7 SC17/WG10（自動車運転免許証と関連書類）

主査 榊 純一

(1) 活動状況

ISO/IEC JTC1 SC17/WG10 では、運転免許証及び関連書類の検討を行っている。

スコープとして、運用上の内容に関する標準化は行わず、運転免許証製作上の技術的項目に関して国際標準化を行うことを明示している。2008年4月より、国内主査が前任の牧野忠由氏から榊純一氏に交代した。

1) 国際会議開催状況

WG10 国際会議は次のように3回開催され、我が国はその全ての会議に参加し国内意見の反映を行ってきている。

2008年06月17日～19日	Athens	(Greece)	第30回国際会議
2008年10月06日～08日	London	(U.K.)	第31回国際会議
2009年02月23日～25日	Singapore	(Singapore)	第32回国際会議

2) 国際会議の審議概況と主要成果

08年度は、パート2 (Machine Readable Technologies) 及び、パート3 (Authenticity and integrity verification :アクセス管理, 認証と完全性確証などの規格)の2つのパートがISとして出版された。これにより当初計画されていたパート1～パート3全ての審議が終了した。現在は新たなパートとしてパート4 (Test Method) の審議を進めることが決まり、検討が始まっている。また規格策定以後に行われた国連のジュネーブ条約改定に伴うパート1と2の改定を行うことが決議されている。

・パート1 (Physical Characteristics and Basic Data Set)

表面記載事項および表面レイアウトの規格、カードの物理的特性を規定している。

具体的にはミニマムデータの抽出、抽出したデータの項目番号と表面記載領域、および運転可能な車種、運転条件のピクトグラム化、カードが備えるべき物理的な特性等の基準を記述している。

本規格は既にISO/IEC事務局から発行され、日本規格協会でも2005年8月から入手可能となって

いる。

2008年06月国際会議から、改定バージョンの審議が始まっている。

・パート2 (Machine Readable Technologies)

電子的な記録を行う方法に関する規格を定めるパートである。IC旅券と類似するLDS (Logical DataStructure) 構造となっており、幾つかの異なる記録メディア (磁気カード、バーコード、IC、光カード) に対応できる構造として、Standard Cording と Compact Cording の2種類パート1と同じくミニマムデータ抽出、データ構造の審議、さらにEU指令との調和が考慮されている。2008年06月国際会議から、改定バージョンの審議が始まっている。2008年02月に開催されたSC17/WG10ナムビア国際会議にてコメント対応が終了し、Comment disposition が発行された。まもなくISとして出版される予定である。

・パート3 (Authenticity and integrity verification)

アクセス管理、認証と完全性確認などの規格を取りまとめるパートである。仕組みはIC旅券に類似したものであるが、運転免許に特化した形で変更されている。2009年3月にISとして出版された。

・パート4 (Test Method for IDL)

主にICのテスト仕様を定めて互換性を確保するためにして2008年から審議が開始されているパートである。現在WDの作成中。

3) 国際会議審議体制

本年度も国際会議セクレタリは日本の榊純一氏 (パナソニック) が務め、本分野の技術的分野は多岐にわたるため、国際会議ではタスクフォース(TF)を設定し審議の促進を図っており、現在11のTF体勢で原案作成を行っている。日本はこのうちカードの物理的信頼性、画像処理、車両および運転条件のカテゴリー化という3分野のタスクフォースリーダーを務め、また他のTFでもベースドキュメントの項目を担当するなどしてドラフト作成に貢献している。

4) 国内会議

国内 WG10 会議は、課題の検討のために第 52 回～56 回の計 5 回開催している。

(2) 今後の主要課題

欧州において運転免許の IC カード化検討が本格化しており、数カ国が仕様を開発し実験などを行っている。新しい運転免許証の発行、あるいは本規格に準拠した仕様である市民カードの発行準備が進みつつある状況に鑑み各パートの見直し審議に対応していく予定である。

(3) 特記事項

欧州において運転免許の IC カード化検討が本格化しており、数カ国が仕様を開発し実験などを行っている。またわが国においては、06年1月から本規格に準拠した IC 化運転免許証が発給されており、現在 37 県で発給が行われている。このように急速に普及が進んでおり、今後は運転免許証を民間で応用する取組が加速され広く利用が進むと期待される。

(4) 2009 年度の国際会議予定

2009年04月23日～24日	Leiden	(Netherlands)	・WG10/TF12 国際会議
2009年06月02日～04日	Paris	(France)	・WG10 国際会議
2009年09月21日～23日	北京	(中国)	・WG10 国際会議

1-3-8 SC17/WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）

(1) 活動状況

WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）案件への対応は、2006年度の体制見直しの結果に基づきサブWG（WG4/SWG4：主査 坂本静生）が行なっている。

その活動内容は、5. SC17/WG4〈端子付ICカード〉及びSWG4〈バイオメトリクス応用〉で報告している。

1-4 SC28 (事務機械 : Office Equipment)

委員長 小澁 弘明

(1) 活動状況

SC28 は日本が国際幹事国業務、議長国を引き受け、積極的に活動を行っている。
現在 WG は 4 つあり、いずれの WG にも参加している。

SC28 は JTC1 の中でも数少ないハードウェアの標準化を進めているが、市場の要求で環境やアクセシビリティへの課題に範囲を広げている。オフィス機器とその隣接分野の標準化との関係が複雑になっており、今後のスコープの見直しを含めた検討を進めている。さらに種々のオフィス機器間の画像再現性や機器上で動作するアプリケーションに対応する課題もあり、日本を中心に SC の内部を組織的に見直ししている。

本年度開催された国際会議等への参加状況は、以下の通りである。

SC28 総会 :	18 人	6 月ベブリンゲン
SC28/AWG :	12 人	6 月ベブリンゲン(5)、1 月ソウル(2)、1 月サンノゼ(5)
SC28/WG2 :	11 人	6 月ベブリンゲン(5)、10 月レキシントン(6)
SC28/WG3 :	4 人	6 月ベブリンゲン
SC28/WG4 :	5 人	6 月ベブリンゲン(2)、1 月サンノゼ(3)
AIF2008 :	1 人	6 月シンガポール
APSG セミナー :	2 人	10 月ジャカルタ

ベブリンゲン総会

本年度は 2008 年 6 月に第 19 回総会が、ドイツの招待によりシュツットガルト郊外ベブリンゲンにある HP 社欧州マーケティング本部会議場にて開催された。9 カ国約 45 名に及ぶメンバー参加の会議であり盛況であった。

日本が主導的に活動している AWG (Advisory Working Group. コンビナーナ Dr. C. W. Kim, Inha Univ, 韓) では、正式に ad-hoc group として、AWG/PWG5(仲谷主査)、AWG/PWG6(臼井主査)の設置が承認された(Resolution 17, 20)。

また、注目される新たな米提案のトナーカートリッジ特性規格 NP 29142(5 parts)の 5 部のうち 4 部の Assistant-editors に日本から参加することになり(Resolution 09)、カートリッジ標準 ISO/IEC 29142 の初めての Editor's meeting が開催され、WD 作成に向けた具体的な動きが始まった。

今回の総会に初めてロシアが参加し、SC28 の活動の重要性を認識、帰国後 P メンバーになるべく推進して、いずれはプレナリーの開催も引き受けたいとの意向が表明された。

次回の総会は 2009 年 6 月に韓国 釜山で開催予定である。

Aisa Imaging Forum 2008 (シンガポール)

2008 年 6 月 24 日シンガポールで開催された Asia Imaging Forum 2008 に招待講演者として参加

(櫻井 SC28 Ambassador 出席)、SC28 の概要及び SC28 で最近発行した「カートリッジ寿命」の標準についてプレゼンテーションを行った。

このフォーラムは、アジア地区の Remanufacturing Industry 関係の展示会に併せて設定されたもので、SC28 セクレタリを通じてプレゼンの要請があり、Ambassador が講師を担当した。

又この機会を利用して、シンガポール標準機関“SPRING Singapore”を訪問し、SC28 シンガポール国内委員会の創設について意見交換、設立促進を行った。

ISO/IEC APSG セミナー (インドネシア)

2008 年 12 月 1 日・2 日インドネシア・ジャカルタで開催された第 7 回 JISC/IEC/APSG Human Resource Development Seminar(METI 委託事業)にリコー宮下委員、櫻井 JBMIA 事務局が出席。新テーマ“Standards for Energy and Resource Saving”について討議、JTC1/SC28 の活動及びカートリッジ寿命 (Yield) に関わる国際標準及び AWG ユーザーニーズに基づくロードマップの作成について紹介した。O メンバーのインドネシアからは参加してもらえなかった。

メンバー国構成

メンバー国は、P メンバーは昨年度と変わらず 14 カ国、O メンバーはベルギーとサウジアラビアが参加して 16 カ国となっている。サウジアラビアがどういう動機で O メンバーになったかは明らかでない。オフィス機器の生産国がふえていない中で参加国の伸びが今後どのように審議に影響を与えるのかが気になるところである。

承認された国際標準など

本年度承認された国際標準は次の 3 件である。

- ISO/IEC 10779: Information technology -- Office equipment accessibility guidelines for elderly persons and persons with disabilities
情報技術－高齢者及び障害者のための事務機器の使いやすさの指針
- ISO/IEC 24734: Method for Measuring Digital Printing Productivity
デジタル印刷生産性測定方法
- ISO/IEC 24735: Method for Measuring Digital Copying Productivity
デジタル複写生産性測定方法

(2) 主な活動概要

JAWG (戦略検討)

SC28 活動をさらに活性化することを狙いに、日本からロードマップを提示し、それに伴う WG の改革案を提示するなど活動をリードしている。

今回の総会では、

- － AWG の下に OWG として PWG5(カラーマネジメント)及び PWG6(オフィス機器アプリケーションソフトウェア)を配することが決定された(Resolution 17/20)。
- －これに関連し、新しい WG5(Office Colour)の設立を日本から提案する運びとなった。
- －懸案のロードマップ策定については、2009 年 1 月のサンノゼ会議でそのベースとなるユーザーニーズ/技術ニーズが合意され、これをテンプレートとして、各 WG と NB の協力を得て SC28 の Roadmap を作成することが合意された。

- － 前回総会での課題であった SC 28 全体の WG 組織，そのスコープ，役員の役割などについては十分な討議が行えず，次回以降への繰越課題となった。
- － International Color Consortium (ICC) との間で A リエゾン関係を構築することが決定された。co-liaison officers は仲谷文雄 Ann McCarthy(Resolution 19)。

生産性関連

- ・ 5 年間にわたり日米が主導して進めてきた生産性規格審議では、その後のお互いの努力によりデジタル・プリンター生産性測定方法 (WD24734) およびデジタル複写生産性 (WD24735) は FDIS に移行し(Resolution 02)、2009 年 1 月にともに承認されるにいたった。
- ・ 新規 NWP(New Work Item Proposal) “Digital Copying Productivity of a Single, One Sided Original “ (単票片面原稿デジタル複写生産性測定方法) も 2009 年 2 月に承認成立した。

画質評価関連

SC28 国内委員会 WG4 は、「モノクロハードコピーの画質属性測定方法(ISO/IEC 24790)」の規格開発を担当すると共に、SC28/WG4(画像品質)のミラー委員会として、「モノクロレーザープリンターの解像力測定(ISO/IEC 29112)」規格開発の検討等に参加してきた。また ISO/IEC 24790 は、経済産業省から委託された「新規分野・産業競争力強化型国際標準提案事業(個別産業技術分野)」の一環として「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する調査研究」を当委員会にて推進してきた。

本年度は、2008 年 6 月にドイツ連邦共和国ベブリンゲンでの第 19 回 Plenary 会議に併せた WG 4 国際会議と、2009 年 1 月にアメリカ合衆国サンノゼでの WG 4 国際会議が開催された。また、昨年度より始まった月 1 回ペースの電話会議 (Teleconference) が 10 回開催された。第 19 回 Plenary 会議において ISO/IEC 24790WD を FirstCD とすることが承認された。

カラーマネジメント関連

- ・ 2006 年 Lexington (米国) で開かれた Plenary で SIG-CC(Colour Comparison)の設立が決議されたが、実質的活動がなかったためその活動を AWG/PWG5 に吸収させることとし廃止した (Resolution 16)。
- ・ 前述のとおり AWG のもとで PWG5 として日本から暫定リーダーを出し、具体的な活動計画を作成することを合意した。
- ・ さらに、上記活動の最初の活動となる NP を 2008 年 11 月末に日本から提案し(TR Type-3 Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment.)、2009 年 3 月に承認成立した。

消耗品関連

複写機，プリンタ，ファックス，複合機の消耗品（トナー/インク）の寿命（使用可能枚数）決定方法は国内では WG7 で，国際では WG2 で対応している。

カラーフォトイールド測定方法 (WD29102) と、カラーフォトイールド・テストチャート (WD29103) について 2 回の WG2 会議(6 月ベブリンゲン、10 月レキシントン)で検討された。

カートリッジ特性関連

2007 年末に米国提案の NP が SC28 で採択され、29142PJ : Cartiridge Characterization (カートリッジ特性) として新プロジェクトが発足した。この対応を専門におこなうグループとして新規に 29142WG (カートリッジ特性) 発足が 2001 年 1 月の SC28 国内委員会で承認された。

2009 年 2 月末現在で 56 名の委員がメンバー登録されている非常に規模の大きなグループであり、全体会議での詳細議論は非常に難しい面もある。構成は 29142 国際プロジェクトの構造に対応した、Part1 : 一般 : 用語、記号 (General :Terms, Symbols and Notations)、Part2 : 標示 (Labeling)、Part3 : 環境 (Environment)、Part4 : インクカートリッジ特性 (Ink cartridge attributes)、Part5 : トナーカートリッジ特性 (Toner cartridge attributes) の 5 つのグループで構成されている。

具体的内容については、各グループ主体にこれから検討・討議されていく。

その他特記事項

- ・ オフィサー任命
- ・ SC 28 活動の対外コミュニケーション促進役として設定した Ambassador を継続することを確認し、引き続き日本 JBMA 事務局櫻井氏が任命された(Resolution 38, 39)。
- ・ ICC とのリエゾン問題

第 19 回総会において、ICC から提案された SC28 への C リエゾン設置は、Resolution として A リエゾン設置として受入れが決定された。その後 JTC1 からは ICC 提案通り C リエゾン設置の Default 投票が行われたが、日本としては、JTC1 規定上 C リエゾンの受入れ要件として受入れ側に NP レベルの WG があることという解釈の元に反対投票を行った。結果として再度 JTC1 投票が行われ、日本として再度討議の結果当初結論通り反対投票を行ったが、多数決で承認された。SC28 国内委員会での論点は、受入れ WG として前述の AWG 傘下の PWG が Directive 上の WG に実質的に該当するかどうかの解釈にあったが、技術委員会では、NP レベル以上の WG が要件という判断であった。国内委員会でこの解釈に意見が分かれたため、投票にかなりの議論と時間を要してしまったことが反省点である。

(3) 今後の主要課題

- ① カートリッジ規格の国内審議体制
- ② 新テーマの発掘と NP 提案の促進(継続)
- ③ 制定された国際規格の JBMS/JIS 化の推進 (支援)
- ④ Secretariat (Chairman & Secretary)業務への支援
- ⑤ SC28 の改革の促進
- ⑥ 新 WG/PWG 体制の確立

以上

(1) 活動概況

1) 国際会議

・ BRM 会議 (独 Boeblingen)

2009 年 1 月末のプリンタ並びに複写機の生産性測定方法 FCD 投票の結果を受けて、BRM 会議が 2009 年 6 月の SC28 プレナリー会議直前に開催された。BRM 会議へは、FCD 投票に際して Disapproval 投票を行なった日本、米国が出席し (24735 については、英国も Disapproval であったが BRM 会議の前に、Approval へ投票を変更した)、FCD への Disposition コメントを解決すべく精力的に審議を進めた。

複写生産性測定方法 (24735) については、Editor である国内 WG3 主査の伊藤が、課題として残っていると思われる指摘項目 (規格タイトルの修正、目次の不具合修正、scope と Annex-D の修正、温湿度環境条件の確認、環境条件の下に Voltage の項の追加、1Set+4min と 1Set+30sec の見積もり値を求める際の NOTE の修正、Feature 測定時のページ数の扱い方等) の解決策を提案し、各項目ごとに各国の合意を得る形で審議を進めた。その結果、24735 生産性測定方法規格について、FCD 文書 update 版を作成するために必要十分な内容で合意を取ることが出来、FCD から次の FDIS のステップへ移行出来ると判断した。

また、BRM 会議後の打合せの中で、米国の Jason 氏より、新規 NP 提案 (24735 の scope 範囲外となっている「自動原稿送り装置無し、帳合機能無しのデジタル複写における単票片面原稿での複写生産性測定方法の規格」) について説明があり、従前より事前協議を続けていた日本側として、本提案の NP 提案提出を受け入れる旨の意思を伝えた。

・ 第 19 回 SC28 Plenary 会議 (独 Boeblingen)

SC28 Plenary 会議にて、国際 WG3 の BRM 審議結果に基づき、24735 については FDIS 案の作成と editor によるレビューを実施することが決議された。

・ FDIS 投票結果と NP 投票結果

投票期限 09 年 1 月 20 日で ISO/IEC FDIS 24735 “Information technology – Office equipment – Method for measuring digital copying productivity –“ の FDIS 投票が行われ、Approval の投票結果を得た。コメントは日本と米国から提示され、editor としての observation をコメント表へ追記し、ITTF への送付を完了した。今後、ITTF からの Proof ドキュメント PRF 24735 を待ち、ITTF と調整をしながら最終文書を作成していく予定。

また、投票期限 09 年 1 月 31 日で New Work Item Proposal “Digital Copying Productivity of a Single, One Sided Original “ の投票が行われ、これも賛成多数で承認された。

2) 国内活動状況

・ 24735 の FDIS 案作成と日本からの投票内容

BRM 審議結果を踏まえて、国内 SC28WG3 委員会にて FDIS 案を作成した。実際の投票にかけられた ITTF 校正後の規格テキストには、FDIS テキスト編集時に、規格名称や Editor 提出テキストとの若干の誤記が見受けられたことと、また、JISC 技術委員会での指摘 (いくつかの表に番号が付与されていなかったこと、番号の書式が誤っていたこと) があったため、それらを含めて修正コ

メントを付け、賛成投票を行った。

- 米国からの NP 提案に対しての日本からの投票内容

本提案内容については、米国のエディタ候補者と日本側との間で従来より十分な意見交換をしており、提案内容に日本側の意向も反映されている。この標準化により、low-end の Ink Jet 複写機までを含めた機器の生産性測定方法が提供され、ユーザーにとっても生産性比較の指標として有益であると判断し、賛成投票を行った。今後、本 NP の審議と投票/コメント提示は、当 WG3 委員会が担当し、インクジェット複写機に関わる内容については、JEITA プリンター専門委員会（プリンター技術分科会 生産性 WG）に検討をお願いすることで合意済みである。

- 国際規格の JIS 化について

本年度中の JIS 化活動は無いが、現在 FDIS 投票の結果、承認された国際規格 ISO/IEC 24735:につき、国内ユーザーの利便性を考慮し、その JIS 制定を行うべく、JIS 化原案作成公募区分 B（平成 21 年 8 月～平成 22 年 7 月）に応募した。また、この JIS 化の作業の完了見通しが立った時点で、既存の電子写真方式アナログ複写機限定の JIS 規格 JIS X 6934:2002「情報技術—事務機器—複写生産性を測定する方法」は廃止する予定である。（なお、JIS X 6934 の対応国際規格である ISO/IEC 14545:1998 も次回見直しにて廃止する予定）

(2) 今後の主要課題

今後の主要課題としては、米国からの NP 提案の審議と 24735 の JIS 原案作成があり、以下を予定している。

- NP 提案と 24735 規格との適用分担をより明確とするため、NOTE 等を追記することなどを、提案済みであるが、それが具体的に織り込まれるか確認する。
- また、本 NP 案については、次回の国際 WG3 委員会にて、米国より WD 案が提示され、各国で集中審議を行うこととなっているが、日本側としては、事前に案文を入手し、主導的な役割を担う日米にて大枠での事前確認を実施し、米国の WD 案の作成を支援することとする。
- JIS 化については、公募が承認された場合、原案作成委員会と ISO/IEC 24735 に関わる分科会の活動（主に国内 WG3 委員が兼任）を進めることとする。

(3) 国際会議参加予定

2008 年 6 月 Plenary Meeting（韓国） 1 名（WG3） + 1 名（JEITA）

1-4-2 SC28/WG 4（画質測定）

主査 稲垣 敏彦

(1) 活動概況

SC 28 国内委員会 WG4 は、「モノクロハードコピーの画質属性測定方法(ISO/IEC 24790)」の規格開発を担当する(エディタは稲垣主査)と共に、SC 28/WG 4(画像品質)のミラー委員会として、「モノクロレーザープリンタの解像力測定(ISO/IEC 29112)」規格開発の検討等に参加してきた。また ISO/IEC 24790 は、経済産業省から委託された「新規分野・産業競争力強化型国際標準提案事業（個別産業技術分野）」の一環として「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する調査研究」を当委員会にて推進してきた。

本年度は 2008 年 6 月にドイツ連邦共和国ベブリンゲンでの第 19 回 Plenary 会議に併せた WG 4 国

際会議と、2009年1月にアメリカ合衆国サンノゼでのWG4国際会議が開催された。また、昨年度より始まった月1回ペースの電話会議(Teleconference)は10回開催された。

3) 国際会議 (SC28 Plenary 会議及びWG4 会議)

(SC28 Plenary 会議)

2008年6月にBöblingenで開催された第18回ISO/IEC JTC1/SC 28総会で、当WG担当のISO/IEC 24790、韓国担当のISO/IEC 29112、画質測定プラットフォーム(Common Scanner)に対して検討し、総会では次のような結果となった。

ISO/IEC 24790 について

- ・ 現状のISO/IEC WD 24790をFirst CDとして登録する。(Resolution 12)
- ・ ISO/IEC 24790のCD開発期間の12ヶ月延長を申請する。(Resolution 13)
- ・ 米国、韓国、中国より日本の作成した画質属性評価サンプルを用いた実験結果が報告されたが日本での実験と大きな相違は見られなかったことが確認できた。今後、詳細な検討を実施する。
- ・ 画質属性の中で、主観評価との相関が不十分であったMottle, Bandingの2属性については今後とも各国と協力し開発を進める。

ISO/IEC 29112 について

- ・ ISO/IEC 29112のWD開発期間の12ヶ月延長を申請する。(Resolution 14)
 - ・ 解像度に関わるMechanical addressability, Effective addressability, Edge definition, Fine-detail rendition capability, Spot-sizeの5種類のAttributeについての検討を韓国、米国メンバーを中心に進める。
 - ・ Co-editorは、Don Williams氏の職務上の理由によりDr. Eric Zeiseに交代する。(Resolution 15)
- その他(Scanner Conformance Method など)**
- ・ TC 42におけるスキャナ評価法の標準についての有効性、問題点の把握ができた。
 - ・ TC42におけるスキャナ評価法の問題点についてはTC42/WG18とのカテゴリCリエゾンを依頼し、標準改定に協力をしていく。(Resolution29)
 - ・ Scanner Conformance Methodとして今後、特性の確認、開発が必要と考えられる特性は空間的均一性、時間的均一性、幾何的な歪、フレア、である。
 - ・ 画質に関わるNWIとしては画質の安定性、再現性が候補として示された。

(SC 28/WG 4 サンノゼ会議)

2009年1月に米国サンノゼで開催されたWG4国際会議で、当WG担当のISO/IEC 24790、韓国担当のISO/IEC 29112、画質測定プラットフォーム(Common Scanner)などに対して検討し、次のような結果となった。

ISO/IEC 24790 について

- ・ 各国から寄せられた各種の評価アルゴリズムによる指標値について、一部の指標値の算出にスキャナのOEFCF補正が行われていない、誤ったスキャンデータが使われていた可能性があるなどの問題が指摘された。正しいデータを使って、算出しなおすことが各国に依頼された。
- ・ MottleとGraininessについては、規格の候補アルゴリズムを持つLexmark社に評価アルゴリズムが提供できるかの検討を依頼した。
- ・ その他寄せられたコメント：“Monochrome”、Mottle周波数、傾いた線の扱いなど不明確な部分の明確化、CDの次のバージョンでの検討中項目の表示、ROI決定法へのMoving Windowの使用、Graininessの観察距離の変更、主観との相関の悪い属性を規格から外すかどうかなど。

- ・サムソン社から 2D ノイズについての IS&T SPIE EI (Electronic Imaging) 2009 (以降は EI 2009 と表記) での発表内容の紹介があった。広い明るさレンジにわたるサンプルの計測結果を用いる方法なので、そのまま ISO/IEC 24790 に適用することはできない。
- ・6月のWG4会議では、主観評価に用いたサンプルについて、Monochromeの観点などから不適切なものを除外する作業を行う。その後採用すべき評価アルゴリズムの選定を行う予定。

ISO/IEC 29112 について

- ・本件に関する EI 2009 での発表内容について紹介があった。また、Oce社よりいくつかのプリンタ解像度評価方法の比較に関する EI 2009 の発表内容の紹介があった。
- ・ISO/IEC 29112 の WD について、特に用語の定義のところを一項目ずつ議論した。修正内容がたくさんありそうなので、次回の電話会議に持ち越された。
- ・次回 WG 4 会議までに各評価アルゴリズムによるテストセットを配布する予定。

Scanner Conformance Method

- ・本件に関連する EI 2009 での発表内容の紹介があった。残件はスキャンデータの補間とサンプリングとの認識。
- ・スキャナの補間品質評価法について、韓国から報告があった。斜めエッジのスキャン結果の 2D 周波数スペクトルから補間品質を評価する。

NWI : Macro Uniformity について

- ・米国より Quality Ruler を用いた Macro Uniformity の評価についての規格提案を 6 月の次回総会で行うことが伝えられた。この規格は、当初 ISO/IEC 19751 開発プロジェクトの中で開発されていたものである。
- ・EI 2009 での発表内容についての説明と、実際の Quality Ruler のサンプルを使った評価の実演があった。

4) 国内活動状況

国内 WG 4 委員会は、経済産業省から委託された「新規分野・産業競争力強化型国際標準提案事業（個別産業技術分野）」の一環として「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する調査研究」委員会を兼ねて、12 回開催され、下記のテーマに関して検討した。

① ISO/IEC 24790 「モノクロハードコピーの画質属性測定法」の開発

昨年度、国内で実施した ISO/IEC 24790 画質属性検証結果と画質属性測定アルゴリズムの改良内容を第 19 回 SC 28 総会で報告し、相関が不十分であった Mottle、Banding については今後もその開発への協力を各国に依頼した。また、日本から配布した画像サンプルと画像データを用い、米国、オランダ、中国、韓国が実施した画質属性検証結果の報告を受けた。

上記、日本を含め 5 カ国の画質属性検証結果を統合し、主観評価結果と画質属性測定値の相関を解析した結果を WG 4 国際会議において報告した。結果は国内での結果と同様で線画質属性については測定アルゴリズムの候補を見出せたが、面画質属性の Mottle、Banding については相関が不十分であった。今後、主観評価実験の見直しもしくは測定アルゴリズムの改良などを各国と協力し実施していく。

また、本標準における画質属性測定の基本となる ROI(測定領域)の設定について ISO/IEC 13660 では不明確な点があったため、測定精度向上の観点から ROI の設定方法を検討し、WG 4 国際会議において各国の賛同を得た。

ISO/IEC 24790 画質属性の適合性試験チャートの改良を検討し、仕様に基づき富士フイルムイメージテック（株）に作成を依頼し、ガラス原版を作成し、ガラス原版から反射ペーパーに 20 枚プリントした。このチャートを用いて、適合性の目標値を決定する。

また、本活動をまとめた「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する調査研究」報告書を作成し、経産省に提出した。

② ISO/IEC 29112 「モノクロレーザープリンタの解像力決定方法」の検討

韓国、米国より解像力を□Native addressability□Effective addressability□Edge definition□Fine-detail rendition capability□Spot-sizeの五つの属性に分類し、それぞれの測定方法について検討するとの提案があり、電話会議およびWG 4 国際会議で検討を続けた。次回総会前にはそれぞれの評価アルゴリズムが提供されることとなった。

(2) 今後の課題

平成 21 年度の課題は、ISO/IEC 24790 (13660 改訂) の開発プロセスに従った継続課題と、WG 4 国際会議で発生したものが挙げられる。

- ① 画質検証実験結果をベースとした 6 種の画質属性アルゴリズムの新規開発と、規格の測定方法の追加/修正を行う。
- ② スキャナ性能評価方法を決定し、画質測定機器として使用可能なスキャナを選定する。
- ③ 選定されたスキャナおよび適合性試験チャートを用いて、確定された測定方法で、文字・ライン画像の画質属性 8 項目とグラフィック画像の画質属性 7 項目に対して、測定機器認定用目標値を追加する。
- ④ ISO/IEC CD 24790 のレベルアップと FCD 化を行う。
- ⑤ ISO/IEC WD 29112 の CD 化に向けて内容を検討し、評価実験へ協力する。

1-4-3 SC28/WG 6 (カラーマネジメント)

主査 村井 和夫

(1) 活動概況

1) 国際会議

2006 年 Lexington (Kentucky 州) で開かれた Plenary で SIG-CC(Colour Comparison)の設立が決議されたが、活動自体の低迷とドイツから Colour Comparison の枠外の提案がでるなど混乱がじていた。

一方 AWG で SC28 活性化の検討の一環として 2007 年松本 Plenary 以降、Office Color を扱う WG 新設を日本から積極的に提案し、設立に向けた活動を進めていた。SIG-CC を廃止して新たなかたちでカラー関連の活動を進める活動案を討議し、2008 年ベブリンゲン (ドイツ) Plenary で AWG のもとで PWG5 として日本から暫定リーダーを出し、具体的な活動計画を作成することを合意した。

さらに、上記活動の最初の活動となる NP を 2008 年 11 月末に日本から提案した。

TR Type-3 Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment.

2009 年 3 月に投票が成立し、プロジェクト 29186 として承認された。

2) 国内活動状況

本年度の国内WG 6 は 8 回開催され、上記 PWG5 対応で事前検討、結果報告と他の標準化機関のカラーマネジメント関連標準の情報交換と対応を行っている。

(2) 今後の主要課題

2009年2月のNP投票結果を踏まえ、2009年韓国 Plenary で Office Colour WG の発足と、日本から WG 主査を出すべく推進していく。

1-4-4 SC28/WG 7 (消耗品)

主査 佐田 和泉

(1) 活動状況

1) 国際会議

(WG2 ドイツベブリンゲン会議 : SC28 ドイツ総会)

2008年6月9-10日に行われ日本から2名が出席した。最初に、カラーフォトイールド・テストチャート(WD29103)の輝度決定方法について議論が行われ、各国からそれぞれ1,000枚程度の写真を送付することが決まり、これらの写真を使ったチャートを各国で評価することになった。その後、カラーフォトイールド測定方法(WD29102)に対して各国から提出された意見について議論し、日本提案の内容は、ほとんどが採用され、標準案に反映されることになった。その他の検討課題については、次の国際会議までに各国で検討後、提案することに決定した。

(WG2 アメリカレキシントン会議)

2008年10月28-29日に開催され、日本のWG7からは2名が出席した。カラーフォトイールド測定法については、推定方法が議論となり、次回会議までに各国が検討することになった。米国が作成したカラーフォトイールド・テストチャートについては、実際の写真との差が大きいなどの課題があるため、別のチャートを作成して、再度各国が評価を行うことに決まった。

2) 国内活動状況

本年度WG7は10回開催され、下記の通り活動した。

a) カラーフォトイールド測定方法(WD29102)

用語定義、テストサンプル数、推定方法などについて各社で詳細に調査し検討を重ね、日本案として国際会議に提案を行った。

b) フォトイールド・テストチャート(WD29103)

測定法同様、チャート案について各社で各種の評価テストを行い、問題点などをまとめた資料を作成して、国際会議にフィードバックした。

(2) 今後の主要課題及び予定

カラーフォトイールド測定方法については、大きな課題はなくなったと考えられるが、テストチャートについては、測定結果に直接影響するため、十分な確認を取りながら進めていく必要がある。

2009年6月 : WG2 韓国会議 (SC28 韓国総会時) 日本から2名出席予定

(1) 活動状況

「Digital Printing Productivity 測定方法」(ISO/IEC24734)の国内検討は、2004 年の NP 時点から JEITA プリンタ専門委員会・技術分科会（生産性 WG）が担当してきた。当 WG は、基本的に技術分科会の開催に合わせる形で月に一度の頻度で開催し、逐次検討を重ねてきた。本年度はプロジェクトのまとめのフェーズにあたり、既に技術的な討議はほぼ完了していたという背景もあり、WG 自体の開催回数は 5 回に留まった。

本プロジェクトは、およそ 5 年間の長期に渡り、関連規格である ISO/IEC24735（「Digital Copying Machine Productivity 測定方法」）とのハーモナイズを図りながら検討を重ねてきた。昨年度に実施された FCD 投票においては、FCD 案の完成度のレベルが十分でなかったことに由来して、日本としては 70 項目のコメントを付帯させて「条件付反対」の投票を行ったが、2008 年 6 月のドイツ・Böblingen 総会に合わせて開催されたコメント処理会議において、日本からのコメントを含む残件に関する全ての技術的な議論を終えることができ、FCD 移行に合意した。その後 8 月にはエディタ（代行）から修正テキストが FDIS 案として投稿され、11 月の FDIS 投票開始を経て、2009 年 1 月に反対投票なしで可決された。また 3 月には正式に IS として発行されようやくプロジェクトが完結した。

10 月にはこの規格の国内啓蒙を目的とした活動として、CEATEC JAPAN 2009 内のコンファレンスの 1 コマで「ISO/IEC24734 の概要紹介」と題した講演（講師：吉田）を行った。

なお、ISO/IEC24734 のエディタであり国際 WG3 のコンビナを務めていた米国コダック社の Dr.Ng は、かねてより闘病中であったが、治療の甲斐もなく、本規格の IS 発行を見届けないまま 11 月初旬に他界された。ご冥福をお祈りするとともに、その数々の功績を讃えたい。

(2) 今後の主要課題

長年に渡り活動してきた JEITA 生産性 WG であるが、元々は ISO/IEC24734 という単一のプロジェクトへの対応を目的として発足した会議体であり、なおかつ今回の FDIS 承認をもって一区切りがついたこともあり、その活動を休止するものとする。なお本規格の JIS 化作業については、平成 21 年度中に別途活動予定である。

今後のスケジュール

2009 年 9 月 : JIS 原案作成委員会開催予定

(1) 活動概況

2008年度はAWGにとって重要な年であった。日本提案ですすめられたSC28の改革提案は、松本総会、ベブリンゲン総会と2年以上をかけた活動が承認されあらたな新たな活動が始まった。各WGのスコプを見直すとともに、二つの新たな分野の活動をPWGとして開始した。オフィスカラーを担当するPWG5とオフィス機器のためのアプリケーションソフトウェアを担当するPWG6の活動で、ともに日本からの提案である。ベブリンゲン総会以後AWGの下で新規標準化のための検討と提案のための活動を正式に開始した。NP提案活動を各国の有識者間で事前検討を進めて、より効率の良い標準化活動を進めようというものである。

AWGの改革提案のもう一つの重要な活動が、SC28の活性化のためのRoadmapの作成である。Roadmap作成の目的は、ユーザーニーズと技術シーズからNP ideaをあげ、優先課題を明確化することと、WGの活動目標(日程)を明示することである。その効果としては、活動の可視化やSC28の活動の外部へのアピールが期待できる。SC28のRoadmapは、5年前に最初の提案が行われたのだが、それは技術シーズを中心に作成しようとしたものであった。今回日本からの提案はユーザーニーズを考慮したもので、従来の技術シーズの軸と、新たなユーザーニーズの軸で構成されている。同じ内容の調査を韓国でも行い、両者の相違点をふまえて評価しまとめたものが2009年1月のサンノゼ会議で合意され、これをテンプレートとして、各WGとNBの協力を得てSC28のRoadmapを作成することが合意された。

国際会議

国際会議は、ベブリンゲン総会の直前に2008年6月に開催されたベブリンゲン会議と、2009年1月にサンノゼで開催されたものの2回である。AWG/PWGはこれ以外に、メール上で約1ヶ月かけて会議を進めるVirtual Meetingという試みを行った。

SC28 ベブリンゲン会議

ベブリンゲン会議では、日本提案の組織案が検討され、原案通り通過した。これによりAWG/PWG5とAWG/PWG6が発足した。その他の主なResolutionは、SIG-CCの解散、ICCへのLiaison、Roadmapの更新、Workscopeの見直しのコメント要求であった。

サンノゼ会議

米国のサンノゼ会議は2009年1月に開催され、総会での懸念事項であったRoadmapの進捗とPWG5、PWG6の進捗が諮られた。PWGはこの会議に先立ちVirtual Meetingが2008年の冬に行われており、総会で持ち越した課題を議論した。その結果を確認しさらに検討を行い理解を深めた。事前にVirtual Meetingを行うことでFace to Faceの会議を非常に効率的に進めることができた。また、Roadmapは総会での意思疎通が十分でできず持ち越していたが、日本からさらに文書を充実させ、また事前の説明も功を奏した結果、日本提案が採用された。今後各NBとWGへのコメント要求を経て2009年の総会でまとまるものと思われる。その他のResolutionとしては、各PWGの作業内容の指示以外はWorkscopeの議論の継続と、PWGの継続である。

2) 国内活動状況

国内活動はJAWGを2006年9月に立ち上げてから2年半で約40回近くの会議と、PWG対応のため

の ad-hoc を数多く開催してきた。今年度の総会及びサンノゼの国際会議のために文書をまとめて国際的に承認をとるための活動が主であった。JAWG の寄書は Roadmap に関するものと、PWG5 と PWG6 からの各 3 通の 7 通である。

(2) 今後の主要課題

2009 年釜山総会への課題

Roadmap の完成

各 NB 及び WG に対してコメントを要求し、それを取り込んだものを作成する。
さらに今後 Roadmap については各国からのコメントが出されるものと思われる。

SC28 Scope の見直し

Scope については、必要であれば進めることとしたが、日本としては当面見直しの必要はないと考えている。

AWG 傘下にある PWG の WG 化の促進

PWG5 は NP の通過後 WG の提案を行う予定で、日本から convenor の立候補を予定している。
PWG6 については、NP 提案を模索する。

日本国内の AWG 関連の課題

SC28 の改革ということで、この数年間活発に国内会議を重ね、国際提案してきたが、組織改革が一段落し PWG ができて順調に活動が始まり、また SC28 Roadmap が発行されて SC28 の活動がわかりやすくなり、対外的なアピールもしやすくなるという成果が得られ、ほぼ当初の目標が達成できた。

来年度は標準化活動の活性化の実施と新たな目標についての検討を進めることになろう。

(3) 国際会議参加予定

2009 年 6 月 釜山総会

AWG	3 名	(内 1 名はセクレタリ)
PWG5	1 名	(コンビナ就任予定)
PWG6	1 名	(コンビナ就任予定)

2010 年 1 月 サンノゼ会議

AWG	3 名	(内 1 名はセクレタリ)
PWG5	1 名	(コンビナ就任予定)
PWG6	1 名	(コンビナ就任予定)

1-4-7 SC28/29142WG (カートリッジ特性)

主査： 宮下 隆明

(1) 活動概況

2007 年末に米国提案の NP が SC28 で採択され、29142PJ : Cartiridge Characterization (カートリッジ特性) として新プロジェクトが発足した。本 WG は 29142 プロジェクトへの対応を専門におこなうグループとして 2001 年 1 月の SC28 国内委員会で発足が承認された。それ以前は、Cartiridge Characterization (カートリッジ特性) 対応グループとして活動を続けていたが、SC28 国内委員会での位置づけが明らかになったことにより、活動方針、体制もより明確にすることがで

きた。

国内委員会（本 29142WG）として、国際 29142PJ への対応を協議、決定する場としての全体会議、全体会議に提案する原案作成ほかをおこなう各パートリーダーをメンバーとしたリーダー会議で構成されている。旧 29142PJ 対応グループの運営を担っていただいた 3 名のリーダーの方々には、アドバイザーとして継続的に運営に協力いただいている。

2009 年 2 月末現在で 56 名の委員がメンバー登録されている、非常に規模の大きなグループであり全体会議での詳細議論は非常に難しい面もある。内部は 29142 国際プロジェクトの構造に対応した、Part1：一般：用語、記号（General Terms, Symbols and Notations）、Part2：標示（Labeling）、Part3：環境（Environment）、Part4：インクカートリッジ特性（Ink cartridge attributes）、Part5：トナーカートリッジ特性（Toner cartridge attributes）の 5 つのグループで構成されている。

現時点では、国際 WG（WG2）で審議している標準の構造、方針が明確になっていないため、各パートに分かれて議論する状態にはなっていないが、パートごとの情報交換は必要に応じて ad-hoc ミーティングとして実施している。

全体会議の運営の効率化を図るため、委員で登録されているメンバーの意見はなるべく所属企業ごとに集約していただくようお願いし、提出された意見の差異についての議論を重点におこない合意形成をはかっている。

2008 年の SC28 Plenary 会議（Boblingen（ドイツ））に併設されて行われた WG2 会議では、プロジェクトの体制の決定、Scope 原案の作成のみが行われた。2008 年秋（10 月）の WG2 会議（Lexington (KY) USA）では、標準の骨格にあたる Scope の議論、主要用語の定義づけが行われ、本標準の Scope、とりあげる試験法、用語、参照環境関連標準の抽出は宿題として各 NB に提案された。

本委員会では、当面 2008 年 10 月の WG2 会議での宿題に対応するための活動を主に行っており、2008 年 12 月末に試験法、2009 年 1 月末に定義すべき用語を委員会の総意として 29142PJ に提案した。3 月末までに Scope についての見解、参照環境関連標準の提案をまとめる予定。

1) 国際会議

- ・ WG2 会議（2008 年 6 月：SC28 plenary 会議と同時開催：Boblingen（ドイツ））

2007 年末に米国提案の NP が採択されて、新プロジェクト（29142PJ）として発足した。WG2 Convenor である Mr. Paul Jeran（米国）からの提案で、新規な WG を設立しないで既存の WG2（Consumer replaceable components）のなかで取り扱うことが決定された。

同会議で、29142PJ の Edotor 構成も審議、確認され、日本からは、Part1：一般：用語、記号、Part2：標示、Part4：インクカートリッジ特性、Part5：トナーカートリッジ特性、の 4 つのパートへの Assistant editor としての参加が認められ、標準開発段階での積極的な提案、参加が可能になった。また、同時開催の SC28 plenary 会議（Boblingen：ドイツ）で WG2 名称を” Consumer replaceable components”から”Consumables”に変更することが承認され、従来審議してきた Yield 関連のプロジェクトだけでなく 29142PJ（Cartridge Characterization）など新規な課題を加えて審議するための環境整備もおこなった。

- ・ WG2 会議（2008 年 10 月：Lexington（Kentucky）：米国）

2008 年 10 月に Lexington（Kentucky）：米国）で開かれた WG2 会議で、標準の骨格にあたる Scope の議論、主要用語の定義づけが行われた。特に、本標準で取り扱うべき範囲を明確にした。また、本標準の Scope、とりあげるべき試験法、用語、参照環境関連標準の抽出を以下に示す納期で各 NB

に依頼した。

- ・2008年12月末： 試験法の提出
- ・2009年1月末： 定義すべき用語の提出
- ・2009年3月末： Scope への意見、参照環境関連標準の提出
- ・2009年3月末： 用語と定義ドラフトを Editor から各 NB に回覧

2) 国内活動状況

本年度の国内 29142WG は 7 回開催され（3 月末までの予定含む）、WG2 会議（2008 年 10 月：Lexington）での各国に検討を依頼された内容への対応を主に行っている。

(2) 今後の主要課題

2009 年 6 月開催予定の Busan（韓国）Plenary に併設開催される WG2 会議で議論される、本標準の骨格、CD 投票に向け作成される WD への対応を事前に行なう。

2009 年秋開催予定の WG2 会議で議論される予定の CD 投票原案作成に対し、いかに日本の意見をまとめるか、あるいはその意見を原案に反映して行くかについての対応を行なう。

(3) 今後の国際会議参加予定

- ・2009 年 6 月開催 WG2 会議（Busan（韓国）Plenary 併設）
 - 29142 国際プロジェクト Editor： 4 名
 - 29142WG：Part3 リーダー： 1 名
- ・2009 年秋 WG2 会議（9 月 or 10 月開催：ウィーン（オーストリア）またはベルリン（ドイツ））
 - 29142 国際プロジェクト Editor： 4 名
 - 29142WG：Part3 リーダー： 1 名

1-5 SC35 (ユーザインタフェースインタラクション : User Interface Interaction)

委員長 山本 喜一 (慶應義塾大学)

(1) 活動概況

国際 SC35 では、7つの下記 WG において規格化活動が行われている。幹事国/議長国はフランスが務め、日本は2つの WG のコンビーナ (WG2 : 山本喜一, WG4 : 中尾好秀) を務めている。

- WG 1 : キーボード及び入力インタフェース
- WG 2 : グラフィカルインタフェース及びインタラクション
- WG 4 : モバイルデバイスのインタフェース
- WG 5 : 文化的及び言語的適合性
- WG 6 : ユーザインタフェースアクセシビリティ
- WG 7 : ユーザインタフェースのオブジェクト, 動作及び属性
- WG 8 : 遠隔インタラクションのためのユーザインタフェース

国内では、WG5 及び WG8 を除く WG の審議は JBMIA, SC35 (WG5 及び WG8 含む) の案件審議は情報処理学会という形式で審議を行っているが、実質的な審議は JBMIA 内で WG との合同委員会において行っている。

また国内 WG については、WG1, WG2(WG7 の案件を含む), WG4, WG6, WG8 の5つが組織されており、その WG でそれぞれの案件を審議している。尚、WG5 については SC35 専門委員会で対応している。

平成 20 年度は、国際 SC35 の成果として ISO/IEC 24757(Keyboard interaction model -- Machine-readable keyboard description)の IS 1 件が出版された。

又、以下の国内委員会の審議、国際会議へ参加する事により SC35 国際標準化の推進を図って来た。

1) 国内委員会

平成 20 年度は、SC35 専門委員会及び WG's 合同会議を 10 回 (原則として月 1 回) 実施し、NP2 件, CD8 件, FCD7 件, FDIS2 件, PDTR1 件 20 件の投票を行った。

2) 国際会議

SC35 国際会議総会は各 WG 会議と合同で行っており、平成 20 年度は 2 回開催された。

平成 20 年 9 月 08 日~12 日	イタリア	ナポリ市
平成 21 年 2 月 16 日~20 日	ドイツ	ベルリン市

日本からは、イタリア会議へは山本(慶大), 池田(千葉大), 中尾, 関(産総研), 中野(沖電気), 野村(日立), 田場(経産省)の7名, ベルリン会議へは前記の田場氏を除く6名と儘田(東芝)がオブザーバとして参加した。ベルリン会議は幹事である仏 AFNOR のセクレタリが参加できず、公式には General orientation meeting として開催されたが、実質的には総会と同じである。

(2) 各WGの審議状況

SC35 としては、上記のとおり平成 20 年度合計 20 件の投票を行った。各 WG については、対応国内 WG の活動報告に述べるが、国内で未組織の WG5 及び情報処理学会組織の WG8 の審議状況は下記となっている。

1) WG5

FCD 15897 Information technology — User interfaces — Procedures for registration of cultural elements の投票が終了し賛成多数で承認され、Disposition of comments と共に FDIS 投票に進めることになったが、日本としては作業を妨げることはしないが特に参加することもしない。

2) WG8

計画していた IS の出版がすべて終了し、本年度は実質的な活動は行われなかった。

(3) 今後の主要課題

アクセシビリティに関する関連規格として JIS X8341-2 対応の規格案の作成を行ったが、本年度中には CD 投票の開始まで進めた。来年度以降、出来るだけ早くの IS 出版に向けて引き続き努力する。

(4) 特記事項

SC35 においては日本が 2 つの WG のコンビーナを務めるとともに、3 件のプロジェクトでプロジェクトエディタを務めている。今後さらに SC35 における日本からの国際的な活動が期待されている。特に、アクセシビリティ関連の規格については日本からの更なる貢献が期待されている。

日本の池田名誉教授がプロジェクトエディタを務めている、Information technology -- User system interfaces and symbols -- Icon symbols and functions -- Part 40: Management of Icon registration の CD 投票が開始され、データベースのプロトタイプを作成して評価を取っている。今後は、IS の制定と共に本番の DB を運用する体制を考える必要がある。

今年度新たに承認された NP, Information Technology —Interoperability with Assistive Technologies については、国際の場での審議体制がまだ確定していないが、対象範囲が極めて広く実際の作業が始まる時には国内での対応体制を考慮する必要がある。

(5) 平成 21 年度国際会議予定

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	欧州	(未定)

1-5-1 SC35/WG1 (キーボード及び入力インタフェース)

主査 中野 義彦

(1) 活動概況

9995 シリーズの第 3 次改正作業は、6 件の CD 投票、6 件の FCD 投票、1 件の CD 投票を行った。2009 年度で終了の見込みである。キーボード配列の標準化の重要性の高まり（特に欧州）を

受けて、活発な規格開発が行われている。FDIS 24757 (Keyboard Interaction model-Machine-readable keyboard description) については、特に問題はなく賛成で投票した。また、NP (Frameworks for text entry based on 3x3 Matrix Layout) は、提案国の韓国の進捗が遅れている、NP 投票時に特に必要がないと思われ、反対投票としていたので、我が国としては特に問題はない。

(2) 審議状況

9995-1 Keyboard layouts for text and office systems — Part 1: General principles governing keyboard layout の CD 投票において、適用領域が拡大。リニア配列キーボード全てが対象。9241-410 を引用。4.1 に Editing Key 追加, 4.15 level lock state 追加, 4.19 section 削除などが変更の要点であるが、軽微な編集的指摘のみで賛成とした。FCD 投票に於いても特に問題はなく賛成投票とした。

9995-2 Keyboard layouts for text and office systems — Part 2: Alphanumeric section の CD 投票において、図 1 のゾーン数が 5~3 に減少したこと、キー数は最小数が 48 が 45 に減少したこと、機能キーとして Control(8.3.9)と Function(8.3.10)が追加されたこと、及び 5.2 物理的な Section や Zone の区分けが簡略化された、図が 3 つに分類され理解しやすくなったことが主な変更点であり、特に問題はなく賛成投票とした。 FCD 投票に於いても同様であり、賛成投票とした。

9995-3 Keyboard layouts for text and office systems — Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section の CD 投票に於いて、主な改正点が「適用領域が拡大。欧州の CEN WS で 2008 年 1 月に設立された MEEK(Functional Multilingual Extensions to European Keyboard Layouts)との合同作業により、次の目的に対応するようにした。すなわち、UNESCO、欧州憲章により固有の文化を大切に、少数民族の文化を継承する目的で、多言語に対応したキーボード及びキー入力方式を開発中であり、SC35 としては 9995-3 を改訂することによりこれらの要求を満たそうとしている。そのために ISO/IEC 10646:2003 に規定されている MES-1 を最小限カバーし更に多用される可能性のある固有名詞や土俗の言語にも配慮し、入力可能なように検討している。このため表が大幅に増加している。」であり、一部の編集的指摘を行い賛成投票とした。

9995-4 Keyboard layouts for text and office systems — Part 4: Numeric section の CD 投票に於いて、主な改正点が「図 1 のゾーン数が 7 から 2 に減少した」ことであり、特に異論はなく賛成投票とした。FCD 投票も同様である。

9995-5 Keyboard layouts for text and office systems — Part 5: Editing and function section 9995-5 の CD 投票に於いて、主な改正点は 9995-6 を統合して新 9995-5 としたこと及び図 1 のゾーン数が 3 であったのがに減少したことである。特に問題なく賛成投票を行い、FCD も同様である。

9995-7 Partie 7: Symboles employés pour la représentation de fonction の CD 投票に於いては仏語と英語の混在など問題があり、反対投票としたが、FCD 投票で日本の意見が取り入れられ賛成投票とした。

9995-8 Keyboard layouts for text and office systems — Part 8: Allocation of letters to the keys of a numeric keypad の CD 投票に於いて、変更点が軽微で問題ないため賛成投票とし、FCD 投票も同様に賛成投票とした。

(3) 今後の主要課題

FCD 9995-3 の投票が予定されている。

(4) 特記事項

・特になし。

(5) 平成 21 年度国際会議予定

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	欧州	(未定)

1-5-2 SC35/WG2 (グラフィカルインタフェース及びインタラクション)

主査 中尾 好秀

(1) 活動概況

1) WG2 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 20 年 9 月 08 日～12 日	イタリア	ナポリ市
平成 21 年 2 月 16 日～20 日	ドイツ	ベルリン市

2) 国際会議の審議概要と主要成果

ナポリ会議

- ・ 日本からニューワークアイテムとして提案した ISO/IEC 11581-40 “Management of Icon Registration”が、NP投票で可決され、SC35 総会で池田委員がプロジェクトエディタとして承認された。ナポリ会議ではNP投票時に各国から寄せられたコメント、及びNP提案と同時に提案した草案 (Working Draft) について審議を行った。会議での審議を踏まえて、WDを修正し 2008年10月末までにCD案を作成し、CD投票にかけることになった。
- ・ 会議期間中にドイツ (D I N) からの懸念として提案された「アイコンは図記号の一部であり、ISO 専用手順 Annex SQ に基づき ISO TC145/SC3 が所掌すべき」との意見について審議した。この結果、アイコンに関する規格は、以前から SC35 が ISO/IEC11582 シリーズ規格として開発したものであること、アイコンは図記号とは異なること、SC35 から ISO TC145/SC3 へのリエゾンを担当し、協力関係を維持すること、TC145/SC3 へ次回 SC35 会議への参加を要請することを決めた。SC35 幹事が TC145/SC3 幹事にリエゾン関係を設定することを連絡する。

ベルリン会議

- ・ WG 2会議には、日本、カナダ、ドイツ、イタリア、フィンランド、英国の6カ国から16名の委員が出席し、アイコンデータベース及びISO/IEC 13251:2004 事務機器用図記号集 のメンテナンスについて討議を行った。
- ・ アイコンデータベース
日本提案のISO/IEC CD 11581-40 アイコンデータベースのメンテナンス手順 (4月を期限として投票中)に関連して、IEC中央事務局IT担当者 (Mr. Alan Maislisch) の協力の下に開発したデモ用

アイコンデータベース (11581 Icon DB) について、WG 2とWG 7の合同会議で池田委員がパワーポイントN1572及びデータベースサーバにアクセスしながらその機能についてデモをおこなった。アイコンデータは規格ISO/IEC 11581-2, -3, -5, -6, ISO/IEC 18035, ISO/IEC 18036, ISO/IEC 24738, ISO/IEC 24755のそれぞれ第6章から取った。デモでは、次の2点の説明があった。

□データベースの検索手段及びISO専用手順の附属書STで規定する変更要求
□検証チームによる評価(Evaluation)及び検証投票(Validation)のためのツール
以上の完成度は高いが、次の点が提起された。

- (a) アイコンを規定する属性の明確化
- (b) 属性のデータが空である場合でも各属性名を表示すべきこと
- (c) アイコングラフィック用のファイル形式として何がよいか
- (d) アイコンの提示として、静的なものだけでなく、動くアイコン、音を伴うアイコン、手で触れるアイコンなども表現できるようにすべきこと (それを考慮した表示法とファイル形式)
- (e) 誰が新しいアイコンを創作するのか。また、その著作権はどうするか。

これを受けて、データベース構造の議論は次回会議まで持ち越すことになった。

関連して、ファイル形式に関する検討をRichard Hodgkinson氏に、データベース構造に関するNP案の作成をJim Carter氏に依頼することになった。本件に関しては、最終日に開催された全体会議で、池田委員及びIEC中央事務局の協力者Alan Maislisch氏に感謝する旨の決議が満場一致で採択された。

- ・ ISO/IEC 13251:2004 事務機器用図記号集 のメンテナンス

先のナポリ会議でメンテナンスを実施する方向であったが、エディタなど人的資源の観点から、直ちにメンテナンスを開始する代わりに、この規格の利用状況(販売実績)を調査することとした。ニーズがあり、人的資源が得られれば、メンテナンス開始の方向である。

3) 国内会議

- ・ CD11581-40 : User Interfaces Icons – Prt40: Management of Icon Registration のCD案を作成しSC35事務局へCD投票のために提出した。
- ・ DTR11581-1 : User Interfaces Icons - Prt1: Introduction to and overview of icon standards のDTR投票を賛成として提出した。
- ・ FCD 11581-10 : User Interfaces Icons - Prt10: Framework and general guidance のFCD投票を賛成として提出した。
- ・ CD11581-40 : User Interfaces Icons – Prt40: Management of Icon Registration のCD投票を賛成として提出した。

*国内においては、WG7の審議案件はWG2で対応している。WG7では、アイコン規格の再構築を行うため3件の提案が承認された。すべてのアイコンを統一した形式で定義し直し、日本から提案したデータベースで管理する計画で、今後とも日本は積極的に協力していく。

(2) 今後の主要課題

- ・ 日本提案のアイコン登録手順の開発
- ・ WG7の2つの案件及び11581シリーズの見直しの審議

(3) 特記事項

- ・ 特になし。

(4) 平成 21 年度国際会議予定

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	欧州	(未定)

1-5-3 SC35/WG4 (モバイルデバイスのユーザインタフェース) 主査 池田 宏明

(1) 活動概況

1) WG4 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 20 年 9 月 08 日～12 日	イタリア	ナポリ市
平成 21 年 2 月 16 日～20 日	ドイツ	ベルリン市

2) 国際会議の審議概要と主要成果

ナポリ会議

- WG 4 のニューワークアイテム検討のため設定された 2 つの Study Group (OWG) の調査結果報告と今後の方針について以下の審議を行った。
- 4 方向キーに関する Study Group (OWG-NUIM) の調査結果報告と審議
日本から国内の製品 (携帯電話, PDA, デジカメ, 音楽プレーヤー) の調査結果を報告し, 参加各国にも同様の製品調査を依頼した。標準化のためにはユーザビリティテストが必要なため国内でテストを実施する準備を推進中であり, そのテスト結果に基づいて日本が WD 及び NP 提案を行う計画を報告した。

今後の日程:

現在～2009 年 3 月 (ユーザビリティテスト準備)

2009 年 4 月～2009 年 12 月 (ユーザビリティテスト)

2010 年 1 月～2010 年 2 月 (NP 提案準備), 2010 年 2 月国際会議 (NP 提案)

- ボイスコマンドの Study Group (OWG-VC) の調査結果報告と審議
日本から国内の製品 (携帯電話, 複写機, 電子辞書, など) の調査結果を報告し, 参加各国にも同様の製品調査を依頼した。また, ボイスコマンドに関する他の標準化の調査結果として ETSI の規格案の検討結果報告を行った。ETSI 規格は, EU の標準規格として参考になるため今後の協力についても議論を行った。モバイル機器 (携帯電話) の UI としては, ETSI だけでなく ITU-T とも連携を取り検討する必要がある。また, ボイスコマンドは, 障害者や高齢者向け UI としても有効であるためモバイル機器だけでなく新しいタイプの UI として標準化の検討を進める。

ベルリン会議

- WG 4 会議には, 日本, カナダ, ドイツ, フィンランド, 英国, 韓国の 6 カ国から 9 名の委員が出席し, 4 方向キーとボイスコマンドについて討議を行った。
- 4 方向キー (NUIM) (注 1)
日本の「携帯用情報機器の 4 方向キーインタラクションに関する標準化調査研究委員会」の調査結果について報告を行い, 討議を行った。現在商品化されている 4 方向キーについて調査で分類されたメインの 6 種類のパターンについてキー操作とラダーメニューの動きについて説明し, どのパターンがユーザにとって使いやすいか等のユーザビリティテストを行いその結果に基づいて

ニューワークアイテムの提案を行うことを報告し了解された。また、初心者と熟練者により使いやすいパターンは異なるので熟練度も考慮に入れたユーザビリティテストが必要とのコメントがあった。スケジュールについては、ユーザビリティテストと並行して、ワーキングドラフトを作成するようアドバイスがあり、スケジュールを変更した。

- ・ ボイスコマンド (VC)

国内製品の調査結果とETSI (注2) のボイスコマンド規格案のまとめを報告し討議を行った。討議で次のような意見が提案された。

- ①日本では、VCを搭載している製品は少ないが、ヨーロッパでは携帯電話などVCを搭載している商品はいろいろあり、VCはポピュラーになりつつある。
- ②ETSI規格では、30カ国の言語のVC単語を標準化しているが、ISO規格では、世界中の言語に対応したVC単語を全部規格化することは不可能なため、VCの機能と各国の言語に対応するVC単語の選択基準を規格化し、具体的なVC単語は、各国が個別に標準化するように規定すべき。
- ③スペルが同じでも方言により発音が異なるため、アイコンやシンボル等と同様に標準化するVCの音声データベースを作る必要がある。
- ④どのような機器を標準化の対象とするのか？ どの程度のVCを標準化するのか？等スコープの審議をはじめに行う必要がある。
- ⑤ETSIのVCコマンド規格は、本標準化の参考になるためETSIのHF(Human Factor)グループとコンタクトを取り連携の要請を検討する。

以上のような討議の結果、ETSIへの働きかけや引き続き標準化に向けた調査と検討を進めることを確認した。

注1 NUIM : New User Interfaces for Mobile devices

注2 ETSI : European Telecommunications Standards Institute(ヨーロッパ電気通信標準化協会)

3) 国内会議

- ・ J B M I Aを通じて国内の関連業界団体や企業に依頼し、「ボイスコマンド」の商品への搭載状況及び標準化に対する意見聴取を行い、調査結果をナポリ会議で報告した。
- ・ 「4方向キー」標準化の予備調査として、平成20年10月にSC35国内専門委員会の委員が中心となって、「個人用移動通信装置の十字キーインタラクションに関する標準化調査研究」委員会(事務局は日本規格協会)を設立した。今後、本委員会の調査結果をベースにSC35専門委員会で審議を行い、SC35国際会議へNP提案を行う。

(2) 今後の主要課題

- ・ The four-direction keys for mobile devices のユーザビリティテストを実施し、国際会議でニューワークアイテム提案を行う。

(3) 特記事項

- ・ 特になし。

(4) 平成 21 年度国際会議予定

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	欧州	(未定)

1-5-4 SC35/WG6 (ユーザインタフェースアクセシビリティ) 主査 関 喜一

(1) 活動概況

平成 20 年度は 4 課題を審議した。本年度 2 月のベルリン会議では、日本からの 2 件の提案のうち 1 件は FDIS 投票, 残り 1 件は CD 投票に進むことの承認を獲得。

1) WG6 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 20 年 9 月 08 日～12 日	イタリア	ナポリ市
平成 21 年 2 月 16 日～20 日	ドイツ	ベルリン市

2) 国際会議の審議概要と主要成果

- FCD 24786 : Accessible User Interface for Accessibility Settings. (日本提案規格 : エディタ関氏) は、2008 年 2 月の FCD 採択後、4 月に US からテクニカルな修正を含む修正案が示され、国内で議論した結果、部分的に修正案を受け入れ 2nd FCD 投票に付すことになった。投票の結果、賛成多数で 2nd FCD 採択され、2009 年 2 月のベルリン会議において FDIS 投票承認を得た。会議終了後にドキュメントを修正して FDIS 投票に付した。
- FDIS 24756 : Framework for specifying a common access profile (CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments. (カナダ提案規格) については、2 月 1 日ㄨ切で FDIS 投票に付された。投票の結果、FDIS が可決された。現在 IS 発行待ち。
- WD 29136 Accessibility functions for personal computers. (日本提案規格 : エディタ野村氏) については、9 月のナポリ会議の直前にカナダからコメントが届き、これについて議論した。ナポリ会議後の作業は、野村委員と Mr. Norm Hodne (Microsoft US) が 11/15 までに校正を行い WG6 に回覧し、12/15 までにコメントを求めた。野村委員と Mr. Hodne は 1/31 までに修正版を作成して WG6 に回覧。2 月のベルリン会議で審議した結果、タイトルを Hardware accessibility features for personal computers に変更し、CD 投票承認を得た。会議終了後にドキュメントを修正して CD 投票に付した。
- NP 13066 Interoperability with Assistive Technology (AT). (カナダ提案規格) については、投票の結果、賛成多数で NP 採択されたことが 9 月のナポリ会議で報告された。エディタは Dr. Jim Carter (加) , コエディタは Mr. Norm Hodne (US) となった。規格作成については、ドキュメントが 6000 ページを超える可能性があり、マルチパートとすることになった。Part 1 では概要, Part 2 以降は各種 OS のアクセシビリティ API について記述することになった。12/15 までに修正した WD を WG6 に回覧し、1/15 までにコメントを求めた。2 月のベルリン会議で議論し、13066-1 は CD 投票, 13066-2 および 3 の TR も NP 投票の承認を得た。会議終了後にドキュメントが修正され、それぞれ投票に付された。

(2) 今後の主要課題

欧米でのアクセシビリティ関連の動向にも注意し、国内の関連団体と調整を取りながら検討を行うことが必要である。次年度は日本提案 2 件のうち 1 件は FDIS 採択および IS 発行、もう 1 件は CD として採択させる。

(3) 特記事項

アクセシビリティ関連の国際規格化活動として、平成 20 年度経済産業省委託事業に下記 2 件を各協会から申請し SC35 において活動を行った。

- 1) 「社会ニーズ対応型基準創成研究事業」：日本提案規格 FCD 24786 “Accessible User Interface for Accessibility Settings.”の国際審議活動（（社）ビジネス機械・情報システム産業協会）
- 2) 「基準認証研究開発事業」：日本提案規格 WD 29136 “Hardware accessibility features for personal computers”の国際審議活動（（財）日本規格協会 情報技術標準化研究センター (INSTAC))

(4) 平成 21 年度の会議予定

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	欧州	(未定)
または 3 月 1 日～5 日		

2 第 108 委員会（オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性）

委員長 羽鳥 光俊

2-1 活動概要（全体）

平成 20 年度は、11 件の国際規格回答原案等について審議を行った。主な内容は、（1）に示すとおりである。なお、国内規格については、IEC 60065:2001 に対応した JIS C6065:2007 版及び「シュレツダに関する省令改正」に伴う JIS C 6950:2006 版の追補版が昨年度発行されたが、両 JIS とも IEC ではすでにこれらの規格の改正版が発行されていることから、原案作成検討グループを設置して、JIS 改正原案の審議を行ってきた。74 分科会、92 分科会、HBS 分科会及び WG10 分科会の詳細は、各分科会活動概要の項参照。

（1）国際規格対応について

平成 20 年度は、TC108 から発行される審議文書について、下記件数の投票を行った。詳細は、添付資料“（参考 1）H20 年度国際規格回答原案等リスト”参照。

- NP (New Work Item Proposal) : 1 件
- DC (Document for Comments) : 6 件
- CDV (Committee Draft for Vote) : 3 件
- FDIS (Final Draft International Standard) : 1 件

（2）国内規格対応について

1) IEC 整合 JIS 改正原案の審議

昨年度設置された原案作成検討グループにおいて改正原案の審議を行った。

- JIS C 6065 原案作成検討グループ：
JIS C 6065:2007 版に対しての追補版（IEC 60065 Ed. 7 Am1 対応）の審議を行い JIS 原案作成委員会における審議を経て、今年度末までには規格制定の予定である。
- JIS C 6950-1 改正原案作成検討グループ：
JIS C 6950-1 改正版（IEC 60950-1:2005 対応）については、引き続き原案作成検討グループにおいて継続審議中である。
- JIS C 62075(仮)原案作成検討グループ：
IEC 62075 の IS 化を受け、JIS C 62075(仮)原案作成検討グループを発足させ、IEC 62075 の翻訳については完了した。

2) 電気用品安全法技術基準省令第 1 項及び省令第 2 項

JIS C 6950-1（平成 21 年 4 月 20 日付制定予定）の電気用品安全法技術基準省令第 2 項基準への採用について、電気用品等規格・基準国際化委員会にて審議された。

（3）平成 20 年度国内委員会及び幹事会（第 108 委員会）開催状況

- 第 108 委員会：4 回開催（5/19、7/11、11/25、2/24）

- ・ 幹事会：2回開催（5/9、2/4）

（4）平成20年度国際会議（TC108）参加状況

詳細は、添付資料“（参考2）国際会議出席者リスト”参照。

- ・ HBSDT ベルギー/ブラッセル会議（H20.05.26～05.30）：6名出席（内オブザーバ1名）
- ・ TC108 プレナリー/HBSDT/MT2 日本/松江会議（H20.10.08～10.14）：
12名出席（内オブザーバ7名）
- ・ HBSDT 米国/メルボルン会議（H21.01.12～01.16）：5名出席
- ・ TC108 WG Environment フランクフルト会議（H21.03.2-3）：Expert 登録をしている小田委員（WG10 主査）が出席。

（5）平成21年度国際会議（TC108）予定

- ・ HBSDT スウェーデン/キスタ会議（H21.06.02～06.06）
- ・ HBSDT イスラエル/テルアビブ会議（H21.10.13～10.15）

2-2 74 分科会活動概要

主査 柴田 恵

旧 TC74 が扱っていた規格、IEC 60950 『IT 機器の安全』 パート 1（一般要求）及びパート 2（個別要求）の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム 2（MT2）に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

（1）国際規格対応について

分科会を 1 回開催し、表に示す IEC 60950-1 第 2 版 修正 No. 1 投票用委員会案の審議を行い、右欄に記した内容を日本意見として提出した。この文書は、2008 年 10 月に松江で開催された MT2 会議で審議された。日本からオブザーバーを含め 13 名が参加し、日本意見の反映を行なった結果、その多くが採用された。

また、SC3C から IEC 60950-1 の表示に関連する文書が発行されたため、SC3C 国内委員会に対し、コメントを提出した。

文書番号	表題及び概要	日本意見概要
108/297/CDV	IEC 60950-1-A1 Ed 2.0: Information technology equipment - Safety - Part 1: General requirements IEC 60950-1 第 2 版 修正 No. 1 投票用委員会案	衝撃試験を免除されるフラットパネルの範囲の明確化、ろうそくの炎による外部着火に関する要求に関してはより慎重な審議が必要など、計 9 件のコメント提出
3C/1587/DC	Document for Comments on survey of graphical symbols for use on equipment standardised by Product Committee but not registered in IEC 60417	Editorial コメント 1 件提出

（2）国内規格対応について

74 分科会では、取り扱わなかった。

（3）今後の主要課題

2009 年度は、IEC 60950-1 第 2 版 修正 No. 1 が FDIS の段階へ進むので、引き続き日本意見が最終の IS に反映されるよう、国内での審議と国際会議への参加を継続する。

（4）平成 21 年度国際会議予定

未定。

2-3 92 分科会活動概要

主査 塩田 武彦

旧 TC92 が扱っていた規格、IEC 60065 『オーディオ、ビデオ及び類似の電子機器—安全性要求』の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム 1（MT1）に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

（1）国際規格対応について

次の1件の文書を審議し、右欄に記した内容を日本意見として提出した。IEC 60065 のメンテナンスに関する技術的な検討は既にほぼ終わっており、MT1 会議は開催されなかった。

文書番号	表題及び概要	日本意見概要
108/295 /FDIS	IEC 60065-A2.Ed7.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements IEC 60065 第7版 修正No.2 最終規格原案	外部着火試験に関わる環境面の検討が行われておらず問題視する声があるため、環境面に関する追加の検討が必要とのコメント共に反対で投票

(2) 国内規格対応について

92 分科会では、取り扱わなかった。

(3) 今後の主要課題

2009 年度は、IEC 60065 第 7 版 修正 No. 2 が FDIS において一度は否決されたが、外部着火に関する部分を削除して再度 CDV として発行される予定であるため、その対応及び IS の段階へ進んだ後に、国内規格についても修正 No. 2 への対応が必要となる。

(4) 平成 21 年度国際会議予定

MT1 会議 予定なし

2-4 HBS分科会活動概要

主査 石井 明

平成 20 年度は、TC108/HBSDT 国際会議に参加及びそれに呼応した国内活動を通じて HBS 規格 (IEC 62368) の研究と国際会議で日本の意見具申を行った。また、『偶然に引き起こされるロウソクの火による発火』(108/304/DC) に関連し、欧州の難燃剤関係者を交え当分科会メンバー有志と環境問題と難燃性材料に関して意見交換を 11 月 14 日に開催した。

(1) 国際会議&審議状況

平成 20 年度は、ベルギー/ブラッセル会議 (5 月)、日本/松江(10 月)、米国/フロリダ・メルボルン(1 月)の 3 回の TC108/HBSDT 国際会議が開催された。ベルギー/ブラッセル会議では 8 チームの審議を実施し、全チームの CD 文書に対して日本意見をそれぞれに提出した。日本/松江会議では 108/303/CDV の投票期限前であるため、108/303/CDV に対する重要なコメントに絞って意見交換を行なった。また、次の新たな DC 文書に関し概要を審議し、IEC 62368 第 2 版に向けての前準備の審議を行なった。

108/304/DC: 外部発火試験

108/306/DC: 火傷に関する要求

108/308/DC: ファンに対する機械的危険要求

108/311/DC: リチウムイオン電池

また、合わせて 108/309/INF の TRF のレポート内容を審議した。

1 月の米国/フロリダ・メルボルン会議では、108/303/CDV 投票結果、僅差で採択され各国のコメントを審議し、新しい概念の HBS 規格 (IEC 62368) 初版発行の為に積極的に審議が行われた。

本年度は TC108/HBSDT、TC108/MT2 及び Plenary 会議を日本で開催、会議場所の事前確認や国際会議開

催に際し、日本規格協会の人的なご支援や、開催地の島根県並びに松江市による多大なご支援をいただき、参加各国メンバーから絶賛の評価を頂き無事終了した。

松江会議後のフロリダ・メルボルン会議でも、松江会議参加者から感謝のことばをいただき、また審議合間のスクリーンに松江会議の場面や松江市内の風景が写しだされ、日本の歴史的町並みや庭園のよさを思い出されていた。

(2) 国内委員会&審議状況

各国際会議前に、HBS 分科会を開催し審議文章の内容を説明し、共通理解を得ると共に活発な意見交換を行ない日本コメントをまとめ、第 108 委員会の承認を頂いて IEC に提出した。

(3) 今後の主要課題

平成 21 年度に FDIS が発行され、IS 化に向けた審議が継続される。IEC 62368 初版は改良の余地が少しあり、継続して IEC 62368 第 2 版に向けての審議を行うことが計画されている。尚、『偶然に引き起こされるロウソクの火による発火』は IEC の上層委員会で環境配慮と製品安全の両方の観点で協議を行なうタスクフォースの立ち上げが承認された。今後、国内でも環境関連の国内委員会と第 108 委員会で調査・検討する予定である。

(4) 平成 21 年度国際会議予定

- ・HBSDT スウェーデン/キスタ会議 (H21. 06. 02~06. 06)
- ・HBSDT イスラエル/テルアビブ会議 (H21. 10. 13~10. 15)

2-5 WG10 分科会活動概要

主査 小田 豊

平成 20 年度は、IEC 62075 の IS 化を受け、JIS C 62075 原案作成検討会を発足させ、ほぼ月 1 回検討会を開催し、平成 21 年 3 月 30 日第 8 回検討会で、IEC 62075 の翻訳はほぼ終了した。

また 12 月 108/314/NP に対して、関係業界団体も含めメール審議し、日本として「反対・コメント付き」で投票した。投票結果は各国から賛成多数で採用された。TC108 WG ENV が発足し、IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新ワークアイテム「IEC 6XXXX Ed 1.0: Measuring Energy Consumption, Performance and Capabilities of Information Technology, Communication Technology and Consumer Electronics Products」を担当する。3 月 2&3 日にドイツフランクフルトで開催される TC108WG ENV に、エキスパート登録している小田委員(WG10 分科会主査)が参加した。

(1) 国際規格対応について

以下の文書の審議・確認を行ない、下記の対応をとった。

文書番号	表題及び概要	対応・結果等
108/314/NP	IEC 6XXXX Ed 1.0: Measuring Energy Consumption, Performance and Capabilities of Information Technology, Communication Technology and Consumer Electronics Products	「反対・コメント付き」で投票

(2) 審議状況

1) 国際会議

3 月 2&3 日にドイツフランクフルトで開催される TC108/WG ENV に、エキスパート登録している小田

委員(WG10 分科会主査)が参加した。

2) 国内委員会

IEC 62075 の IS 化を受け、JIS C 62075 原案作成検討会を発足させ、ほぼ月 1 回検討会を開催し、3 月 30 日第 8 回検討会で、IEC62075 の翻訳はほぼ終了した。

12 月 108/314/NP に対して、関係業界団体も含めメール審議し「反対・コメント付き」で投票した。108/314/NP は投票結果、各国から賛成多数で採用された。TC108/WG ENV が発足し、IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新ワークアイテム「IEC 6XXXX Ed 1.0: Measuring Energy Consumption, Performance and Capabilities of Information Technology, Communication Technology and Consumer Electronics Products」を担当する。日本でも現 WG10 の既存メンバーに加え、追加委員を募集し、WG ENV 審議に対応開始した。

(3) 今後の主要課題

JIS C 62075 原案に関して、関連ある IEC 62430 の TC111/WG2 国内委員会に連絡する。平成 21 年 7 月を目処に自主提案する予定。

TC108/WG ENV が発足し、IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新ワークアイテム「IEC 6XXXX Ed 1.0: Measuring Energy Consumption, Performance and Capabilities of Information Technology, Communication Technology and Consumer Electronics Products」を担当する。日本でも現 WG10 の既存メンバーに加え、追加委員を募集し、WG ENV 審議に対応する。

(4) 平成 21 年度国際会議予定

第 1 回会議が平成 21 年 3 月に開催され、そのフォロー会議が開催される予定。

2-6 JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要

主査 久保田 嘉一

(1) 概要

平成 19 月に発足した JIS C 6950-1 改正原案作成検討Gを本年度も引き続き、会議を月一回、計 12 回開催し、改正項目を中心に、クラス 0I 機器の定義の見直しを含め、改正されていない項目についても必要に応じて、正確で分かり易い表現に修正するなど配慮し、JIS C 6950-1 改正原案 (IEC 60950-1 Ed.2 対応) の素案を作成した。

また、JIS C6950-1 (IEC 60950-1 Ed.1 対応) については、JIS 新様式に書き直した内容も含め、関係官庁諸団体からコメントがあり、その対応を迅速に行った。その結果、平成 21 年 4 月 20 日付で制定される見通しがついたことから、電気用品安全法技術基準省令第 2 項基準への採用に関する審議を社団法人日本電気協会 (省令第 2 項採用調整委員会事務局) に依頼し、2 月 17 日に開催された電気用品等規格・基準国際化委員会にて説明した。この審議の結果、承認され、電気用品調査委員会に上申されることになった。

(2) 今後の主要課題

JIS C 6950-1 改正原案作成委員会とその傘下に分科会を設立して頂き、電気用品安全法を配慮した JIS 制定に向けて、審議メンバー全員の協力のもとに、完成度の高い最終原案を速やかに審議・作成する。

併せて、関係各位の支援を得て、電気用品安全法第 2 項基準としての採用ができるだけ早く実現するよう、活動する。

技術基準として考慮すべき課題としては、次のようなことを念頭に入れ、活動する。

- ・日本のデビエーションは極力少なくする。
- ・4月20日告示が予定されている JIS C 6950-1 のうち、踏襲すべき事項を見極める。
- ・108/322/RVC(2009年2月6日)「108/297/CDV: IEC 60950-1 Amd.1 Ed 2.0 投票結果」の先取りの必要性を検討する。

2-7 JIS C 6065 改正原案作成活動概要

主査 山本 久義

(1) 概要

AV 機器安全性の JIS は、電気用品安全法（省令 2 項）としても用いられていることから、その改正作業は重要な位置づけとなってきた。

2005 年に改正された国際安全規格 IEC 60065 Ed7. Amd. 1 の JIS 化事業として H19 年、「JIS C 6065 改 改正原案作成検討 G」を発足し、昨年度 4 回、本年度 5 回、計 9 回の検討会を開催し、各関係者の意見も収集し、現行 JIS の追補版の形式で原案を作成した。

その後、本原案は「JIS C 6065 改原案作成委員会」において 2 回審議され、「JIS C 6065 追補版」の原案は承認された。

(2) 今後の主要課題

現在、本原案は「電気用品等規格・基準国際化委員会」に説明され、正式に、JIS 化、及び省令 2 項化作業の運びとなった。

なお、現在、TC108 において、IEC 60065 Ed7. Amd. 2 の作業中である。この規格は IEC 60065 としての最後の改正となる予定のため、Amd.2 に対応する JIS の改正は、追補ではなく全面改正にする予定である。

(参考 1)

平成 20 年度 国際規格回答原案等リスト

ISO/IEC JTC1/SC17

No.	発信年月日	件 名
1	2008-04-03	CD 11693-2: Identification cards – Optical memory cards – Part 2: Co-existence of optical memory with other machine-readable technologies
		識別カードー光メモリーカードー第2部: 光メモリーカードとその他の機械判読カードの共存
2	2008-04-21	FDIS 14443-1 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit cards – Proximity cards – Part 1: Physical characteristics
		識別カードー外部端子なし IC カードー近接型ー第 1 部: 物理的特性 (改訂)
3	2008-04-25	FCD 10373-3 (Rev): Identification cards – Test methods – Part 3: Integrated circuit cards with contacts and related interface devices
		識別カードー試験方法ー第 3 部: 外部端子付きカード及び関連接続装置 (改訂)
4	2008-04-25	FCD 11695-1: Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 1: Physical characteristics
		識別カードー光メモリーカードーホログラム記録方式ー第 1 部: 物理的特性
5	2008-04-25	FCD 11695-2: Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 2: Dimensions and location of accessible optical area
		識別カードー光メモリーカードーホログラム記録方式ー第 2 部: 光記録領域の寸法及び位置
6	2008-04-25	FCD 11695-3 Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 3: Optical properties and characteristics
		識別カードー光メモリーカードーホログラム記録方式ー第 3 部: 光学的特性
7	2008-05-19	FDIS 11694-4 (Rev): Identification cards - Optical memory cards – Linear recording method – Part 4: Logical data structures
		識別カードー光メモリーカードー直線記録方式ー第 4 部: 論理データ構造 (改訂)
8	2008-05-19	FDIS 11694-3 (Rev): Identification cards – Optical memory cards – Linear recording method – Part 3: Optical properties and characteristics
		識別カードー光メモリーカードー直線記録方式ー第 3 部: 光学的特性 (改訂)
9	2008-05-19	FDIS 14443-4 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards – Proximity cards – Part 4: Transmission protocol (Revision)
		外部端子なし IC カードー近接型ー第 4 部: 伝送プロトコル (改訂)
10	2008-07-03	CD 24727-6: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols for interoperability
		情報技術ーIC カードプログラミングインターフェースー第 6 部: 相互運用の認証プロトコルのための認証機関登録手続き
11	2008-08-11	CD 24787: Information technology – Identification cards – On-Card matching
		情報技術ー識別カードーオンカードマッチング
12	2008-08-05	NWIP ISO/IEC 7816-4: Identification cards – Integrated circuit cards – Part 4: Organization, security and commands for interchange /Amendment-1: Record activation and deactivation
		識別カードーIC カードー第 4 部: 交換のための構成、セキュリティ及びコマンド (追補ー 1: 記録の活性化と非活性化)
13	2008-08-29	NWIP ISO/IEC 10373-6: Identification cards – Test methods – Part 6 :Proximity cards/Amendment 7: Test methods for ePassport
		識別カードの試験方法ー第 6 部: 外部端子なしカードー近接型ー追補 7 電子パスポートの試験法
14	2008-07-28	FDIS 24727-2: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 2: Generic card interface
		情報技術ーIC カードプログラミングインターフェースー第 2 部ー汎用カードインターフェース

No.	発信年月日	件名
15	2008-09-05	CD 24727-5: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 5: Testing
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－第 5 部－試験
16	2008-09-01	FDAM 7816-4: Identification cards – Integrated circuit cards – Part 4 : Organization, security and commands for interchange/AM1
		識別カード－IC カード－第 4 部 : 交換のための構成、セキュリティ及びコマンド/AM1
17	2008-09-01	FDIS 18013-3: ISO Compliant Driving Licence – Part 3: Access control, authentication and integrity validation
		情報技術－個人識別－ISO 規格運転免許証－第 3 部 : アクセス管理、認証と完全性確証
18	2008-09-05	CD 24789-1: Identification cards – Cards service life – Part 1: Application profiles and criteria
		識別カード－耐用年数－第 1 部 : 応用プロファイルおよび適用基準
19	2008-09-05	CD 24789-2: Identification cards – Cards service life – Part 2: Methods of evaluation
		識別カード－耐用年数－第 2 部 : 評価方法
20	2008-09-01	FDIS 11695-1: Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 1: Physical characteristics
		識別カード－光メモリカード－ホログラム記録方式－第 1 部 : 物理的特性
21	2008-09-01	FDIS 11695-2: Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 2: Dimensions and location of accessible optical area
		識別カード－光メモリカード－ホログラム記録方式－第 2 部 : 光記録領域の寸法及び位置
22	2008-09-01	FDIS 11695-3: Identification cards – Optical memory cards – Holographic Recording Method – Part 3: Optical properties and characteristics
		識別カード－光メモリカード－ホログラム記録方式－第 3 部 : 光学的特性
23	2008-09-09	FCD 11693-2: Identification cards - Optical memory cards - Part 2: Co-existence of optical memory with other machine-readable technologies
		識別カード－光メモリカード－第 2 部 : 光メモリカードとその他の機械判読カードの共存
24	2008-08-29	PDAM 10373-6: Identification cards – Test methods – Part6 :Proximity cards /AM7: Test methods for ePassport
		識別カードの試験方法－第 6 部 : 外部端子なしカード－近接型－追補 7 電子パスポートの試験法
25	2008-09-05	CD 14443-2 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards – Proximity cards – Part 2: Radio frequency power and signal interface
		外部端子なし IC カード－近接型－電力伝送及び信号インターフェース (改訂)
26	2008-09-05	CD 14443-3 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit cards – Proximity cards – Part 3: Initialization and anti-collision
		外部端子なし IC カード－近接型－第 3 部 : 初期化及び衝突防止 (改訂)
27	2008-09-05	CD 10373-6 (Rev): Identification cards – Test methods – Part6 :Proximity cards
		識別カードの試験方法－第 6 部 : 外部端子なしカード－近接型 (改訂)
28	2008-09-05	NWIP ISO/IEC 12905: Enhanced Terminal Accessibility (ETA) using cardholder preference interface
		カード所持者に適合したインターフェースを用いた端末利用の向上 (Enhanced Terminal Accessibility: ETA)
29	2008-09-25	FDIS 24727-4: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part4: API Administration
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－第 4 部－API 管理機構
30	2008-09-26	CD 10373-8: Identification cards – Test Methods – Part 8: USB-ICC
		識別カードの試験方法－第 8 部 : USB-ICC

No.	発信年月日	件名
31	2008-10-06	FDAM 7816-15: Identification cards – Integrated circuit cards – Part 15: Cryptographic information application /AM2: Error corrections and extensions for multi-application environments
		識別カード-ICカード-第15部:暗号情報用途/AM2:マルチアプリケーション環境の誤記修正及び拡張
32	2008-10-06	FDIS 24727-3: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 3 Application interface:
		情報技術-ICカードプログラミングインターフェース-第3部:アプリケーションインターフェース
33	2009-01-15	CD 24787: On-Card finger print matching (Information technology – Identification cards – On-Card matching)
		情報技術-識別カード-オンカードマッチング
34	2009-02-23	CD 15693-1 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards – Vicinity cards – Part 1: Physical characteristics
		外部端子なしICカード-近傍型-第1部:物理的特性(改訂)
35	2009-02-23	FDIS 15693-3 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards – Vicinity cards – Part 3: Anticollision and transmission protocol
		外部端子なしICカード-近傍型-第3部:衝突防止及び伝送プロトコル(改訂)
36	2009-03-02	FCD 14443-2 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards – Part 2: Radio frequency power and signal interface
		識別カード-外部端子なしICカード-近接型-第2部:電力伝送及び信号インターフェース(改訂)
37	2009-03-02	FCD 14443-3 (Rev): Identification cards – Contactless integrated circuit(s) cards – Proximity cards – Part 3: Initialization and anticollision
		外部端子なしICカード-近接型-第3部:初期化及び衝突防止(改訂)
38	2009-03-02	FPDAM 10373-6: Identification cards – Test methods – Part 6: Proximity cards /AM 7 Test methods for ePassport
		識別カードの試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型-追補7電子パスポートの試験法
39	2009-03-24	CD 10373-6 (Rev): Identification cards – Test methods – Part 6: Proximity cards
		識別カードの試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型(改訂)
40	2009-03-24	CD 24727-5: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 5: Testing
		情報技術-ICカードプログラミングインターフェース-第5部-試験
41	2009-03-24	FCD 24727-6: Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols for interoperability
		情報技術-ICカードプログラミングインターフェース-第6部:相互運用の認証プロトコルのための認証機関登録手続き

ISO/IEC JTC1/SC28

No.	発信年月日	件 名
1	2009-01-09	FDIS 24734: Method for Measuring Digital Printing Productivity
		デジタル印刷生産性測定方法
2	2009-01-09	FDIS 24735: Method for Measuring Digital Copying Productivity
		デジタル複写生産性測定方法
3	2009-01-19	NP: Digital Copying Productivity of a Single, One Sided Original
		片面単票原稿でのデジタル複写生産性
4	2009-01-28	NP: TR Type-3 --- Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment
		オフィスカラー機器におけるカラーガマットマッピングアルゴリズムのテスト方法

ISO/IEC JTC1/SC35

NO.	発信年月日	件名
1	2008-07-11	PDTR(N1257) : ISO/IEC TR11581-1 User Interface Icons -- Part 1: Introduction to and overview of icon standards
		情報技術－ユーザインタフェース－ 第1部：アイコン規格の紹介と概要
2	2008-07-18	NP(N1258) : Information technology -- Interoperability with Assistive Technologies
		情報技術－アクセシビリティ
3	2008-07-27	CD(N1280) : ISO/IEC 9995-7 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 7: Symbols used to represent functions
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第7部：
4	2008-07-27	CD(N1276) : ISO/IEC 9995-1 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 1: General principles governing keyboard layouts
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第1部：キーボードレイアウト用一般原則
5	2008-07-27	CD(N1277) : ISO/IEC 9995-2 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 2: Alphanumeric section
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第2部：
6	2008-07-27	CD(N1278) : ISO/IEC 9995-4 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 4: Numeric section
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第4部：
7	2008-07-27	CD(N1279) : ISO/IEC 9995-5 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 5: Editing and function section
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第5部：編集領域
8	2008-07-27	CD(N1281) : ISO/IEC 9995-8 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 8: Allocation of letters to the keys of a numeric keypad
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第8部：10キーパッドの数字キーに対する文字の割当て
9	2008-08-20	NP(N1274) : ISO/IEC TR11581-40 User system interfaces and symbols -- Icon symbols and functions -- Part 40: Management of Icon registration
		情報技術－ユーザインタフェース&シンボル－アイコンシンボル&ファンクション －第40部：アイコン登録の管理
10	2008-08-26	FDIS(N1198):ISO/IEC 24757 Information technology -- Keyboard interaction model -- Machine-readable keyboard description
		キーボード相互作用モデル－キーボードの機械可読記述

11	2008-08-31	CD(N1273) : ISO/IEC 11581-10 User Interface Icons -- Part 10: Framework and general guidance
		情報技術 —ユーザインタフェイスアイコン — 第10部：枠組みと全体的手引き
12	2008-12-01	FCD(N1290) : ISO/IEC 24786 Information technology -- User Interfaces - Accessible User Interface for Accessibility Setting on Information Devices Part 1 : General and methods to start
		情報機器におけるアクセシビリティ設定のためのアクセシブルなユーザインタフェース
13	2009-01-25	FCD(N1336) : ISO/IEC 9995-2 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 2: Alphanumeric section
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第2部：
14	2009-01-25	FCD(N1340) : ISO/IEC 9995-5 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 5: Editing and function section
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第5部：編集領域
15	2009-01-25	FCD(N1338) : ISO/IEC 9995-4 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 4: Numeric section
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第4部：
16	2009-01-25	FCD(N1342) : ISO/IEC 9995-7 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 7: Symbols used to represent functions
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第7部：
17	2009-01-25	FCD(N1334) : ISO/IEC 9995-1 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 1: General principles governing keyboard layouts
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第1部：キーボードレイアウト用一般原則
18	2009-01-25	FCD(N1343) : ISO/IEC 9995-8 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 8: Allocation of letters to the keys of a numeric keypad
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第4部：
19	2009-01-30	CD(N1349) : ISO/IEC 9995-3 Keyboard layouts for text and office systems -- Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第3部：
20	2009-02-02	FDIS : ISO/IEC 24756 Information technology -- Framework for specifying a common access profile (CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments
		ユーザ、システム及び環境における必要性及び能力の共通アクセス特性を規定する枠組み

IEC/TC108

NO.	発信年月日	件名
1	2008-04-25	CDV(276) : IEC 62368 Audio/Video, Information and Communication Technology Equipment - Safety - Requirements (全 329 頁)
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
2	2008-06-27	FDIS(295) : IEC 60065-A2 Ed 7.0 Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器 : 安全性要求事項
3	2008-07-11	DC(294) : IEC 62368 Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Annex N, by adding requirements for the use of lithium-ion batteries
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
4	2008-10-03	CDV(297) : IEC 60950-1-A1 Ed 2.0 Information technology equipment - Safety - Part 1: General requirements
		情報技術機器 : パート 1 安全要求
5	2008-10-03	DC(304) : IEC 62368 Secretary proposal to introduce into IEC 62368 an informative Annex Y, Accidentally-caused candle flame ignition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
6	2008-10-03	DC(306) : IEC 62368 Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Clause 9 covering thermal burn injury requirements
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
7	2008-10-03	DC(308) : IEC 62368 Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Annex M, by adding requirements for the use of lithium-ion batteries(National Committees are requested to submit their comments by 3 October 2008 using the IEC electronic voting system.)
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
8	2008-10-03	DC(311A) : IEC 62368 Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Annex M, by adding requirements for the use of lithium-ion batteries
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
9	2008-10-3	DC(308A) : IEC 62368 Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Table 40, Figure 53 and Subclause 8.5.1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求
10	2008-12-19	108/314/NP : IEC 6XXXX Ed 1.0: Measuring Energy Consumption, Performance and Capabilities of Information Technology, Communication Technology and Consumer Electronics Products
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 環境配慮設計
11	2008-12-19	CDV(303) : IEC 62368 Other authorized committees:8, 21, 22, 22E, 22H, 37, 37A, 39, 47, 47E, 64, 66, 76, 77, 77A, 89, 96, 100, 109, 110, 111, ACEA, ACEC, ACOS IEC 62368 Ed 1.0: Audio/Video, Information and Communication Technology Equipment - Safety - Requirements
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器 : 安全要求

(参考2) 2008年4月～2009年3月 国際会議出席者リスト

ISO/IEC JTC1/SC 17

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
Plenary	2008-10-08/10	London, UK	8	廣川勝久[SC17/ECSEC]、森田信輝[経済産業省]、中澤明[日本電産サンキョー]、苅部浩[JBMIA]、寄本義一[凸版印刷]、谷内田益義[東工大]、井出野敦弘[全国銀行協会]、坂本静生[日本電気]
WG1	2008-06-03/04	Harrisburg, USA	2	中澤明[日本電産サンキョー]、寄本義一[凸版印刷]
WG1	2008-10-06/08	London, UK	3	中澤明[日本電産サンキョー]、苅部浩[JBMIA]、寄本義一[凸版印刷]
WG1	2009-03-03/05	Singapore	2	中澤明[日本電産サンキョー]、齊藤宏一[凸版印刷]
WG3	2008-05-26/28	Ottawa, Canada	1	寄本義一[凸版印刷]
WG4	2008-04-14/18	Sydney, Australia	3	寄本義一[凸版印刷]、谷内田益義[東京工大]、高木伸哉[パナソニック]、
WG4	2008-09-29/10-03	London, UK	3	寄本義一[凸版印刷]、谷内田益義[東京工大]、高木伸哉[パナソニック]、
WG4 AdHoc, ETA	2009-01-13/15	Berlin, Germany	2	寄本義一[凸版印刷]、高木伸哉[パナソニック]、
WG4	2009-03-02/06	Paris, France	1	寄本義一[凸版印刷]
WG5	2008-10-06	London, UK	1	井出野敦弘[全国銀行協会]
WG8, TF2	2008-04-03/10	Tokyo, Japan	8	苅部浩[JBMIA]、向井幹雄[ソニー]、金子良明[富士通]、山本英朗[NTT]、清水博夫[東芝]、滝口昌宏[デンソーウェーブ]、高山佳久[ソニー]、榊純一[パナソニック]
Ad Hoc Meeting of SC17 & SC6 on Harmonization	2008-09-02/04	Berlin, Germany	3	廣川勝久[SC17/ECSEC]、苅部浩[JBMIA]、向井幹雄[ソニー]
SC6 Study Group on Harmonization	2009-03-18/19	Fukuoka, Japan	1	苅部浩[JBMIA]、
WG8	2008-09-29/10-03	London, UK	5	苅部浩[JBMIA]、山本英朗[NTT]、清水博夫[東芝]、滝口昌宏[デンソーウェーブ]、向井幹雄[ソニー]
WG8	2008-11-10/14	Graz, Austria	3	苅部浩[JBMIA]、清水博夫[東芝]、滝口昌宏[デンソーウェーブ]
WG10	2008-06-17/19	Athens, Greece	4	榊純一[パナソニック]、寄本義一[凸版印刷]、伊藤麻紀[警察庁]、酒井高彦[東芝]
WG10	2008-10-06/08	London, UK	3	寄本義一[凸版印刷]、酒井高彦[東芝]、岡部正勝[警察庁]
WG10	2009-02-23/25	Singapore	5	榊純一[パナソニック]、寄本義一[凸版印刷]、伊藤麻紀[警察庁]、渋谷貴之[日本電気]、水野勝俊[日本電気]
WG11	2008-09-10/12	Madrid, Spain	1	坂本静生[日本電気]
ePassport EAC Test	2008-04-01/02	Paris, France	1	榊純一[パナソニック]
ICAO TAG-MRTD	2008-05-05/07	Montreal, Canada	2	榊純一[パナソニック]、福山宏、西村典子[外務省]、古家真[国立印刷局]
ePassport EAC Test	2008-09-07/12	Prague, Czech Republic	2	榊純一[パナソニック]、西村典子[外務省]
ICAO TAG-MRTD-NTWG	2008-09-23/26	Bern, Switzerland	3	榊純一[パナソニック]、西村典子[外務省]、古家真[国立印刷局]
ICAO-NTWG	2009-03-25/27	Brussels, Belgium	2	榊純一[パナソニック]、西村典子[外務省]
合計			69	

ISO/IEC JTC1/SC28

会議名称	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
ISO Chairman's Conference	2008-06-05/06	Geneva, Switzerland	2	斎藤輝[JBMIA], 熊倉和正[リコー]
19th Plenary	2008-06-11/13	Boeblingen, Germany	17	斎藤輝[JBMIA], 熊倉和正[リコー] 小瀬弘明[-], 今河進, 宮下隆明[リコー], 伊藤丘[コニカミルビシネステクノロジーズ], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 臼井信昭[PFU], 佐田和泉, 藤田徹[セイコーエプソン], 松重直樹, 谷川耕一, 海老沢功, 平田雅一[キヤノン], 吉田信司[JEITA], 大久保彰徳, 櫻井穆[JBMIA]
AWG	2008-06/05/06	Boeblingen, Germany	5	大久保彰徳[JBMIA], 宮下隆明, 村井和夫[リコー], 臼井信昭[PFU], 仲谷文雄[富士ゼロックス]
AWG	2009-01-16/17	San Jose, USA	5	大久保彰徳, 村井和夫[JBMIA], 宮下隆明[リコー], 臼井信昭[PFU], 仲谷文雄[富士ゼロックス]
WG2	2008-06-09/11	Boeblingen, Germany	5	佐田和泉[セイコーエプソン], 平田雅一, 松重直樹[キヤノン], 小瀬弘明[-], 櫻井穆[JBMIA]
WG2	2008-10-28/30	Lexington, USA	6	佐田和泉[セイコーエプソン], 平田雅一, 松重直樹[キヤノン], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明, 木村重昭[リコー]
WG3	2008-06-06/11	Boeblingen, Germany	4	伊藤丘[コニカミルビシネステクノロジーズ], 谷川耕一, 海老沢功[キヤノン], 吉田信司[JEITA]
WG04	2008-06-09/11	Boeblingen, Germany		藤田徹[セイコーエプソン], 今河進[リコー]
WG04	2009-01-22/23	San Jose, USA	6	稲垣敏彦[JBMIA], 藤田徹[セイコーエプソン], 今河進[リコー]
Asia Imaging Forum	2008-06-23/25	Singapore	1	櫻井穆[JBMIA]
合計			51	

ISO/IEC JTC1/SC35

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
SC35/Plenary	2008/9/8	Napoli, Italy	7	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中尾好秀, 中野義彦(沖電気), 田場盛裕(METI), 野村茂豊(日立:INSTAC), 関喜一(産総研), 池田宏明(千葉大)
SC35/WG1&5	2008-09-8/9	Napoli, Italy	2	中野義彦(沖電気), 関喜一(産総研)
SC35/WG2&7	2008-09-8/12	Napoli, Italy	4	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中尾好秀, 池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研)
SC35/WG4	2008-09-8/12	Napoli, Italy	4	中尾好秀, 山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研)
SC35/WG6	2008-09-8/12	Napoli, Italy	5	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中野義彦(沖電気), 田場盛裕(METI), 野村茂豊(日立:INSTAC), 関喜一(産総研)
SC35/WG8	2008-09-8/12	Napoli, Italy	2	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中野義彦(沖電気)
SC35/GOM(General Orientation Meeting)	2009/2/16	Berlin	7	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中尾好秀, 関喜一(産総研), 中野義彦(-), 野村茂豊(日立), 池田宏明(千葉大:IEC/SC3C), 儘田徹(東芝)
SC35/WG1&5	2009-2-16/19	Berlin	2	中野義彦(沖電気), 関喜一(産総研)
SC35/WG2&7	2009/2/16,19	Berlin	4	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 中尾好秀, 池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研)
SC35/WG4	2009/2/20	Berlin	4	中尾好秀, 山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 池田宏明(千葉大), 関喜一(産総研)
SC35/WG6	2009-02-18/19	Berlin	5	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 関喜一(産総研), 中野義彦(沖電気), 野村茂豊(日立:INSTAC), 儘田徹(東芝)
SC35/WG8	2009/2/16	Berlin	2	山本喜一(慶応義塾大学:ITSCJ), 関喜一(産総研)
合計			48	

IEC/TC108

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
TC108/HBSDT	2008-04-16/25	Brussels, Belgium	5	佐藤幸一(日本IBM)、石井明(リコー)、正木伸宏(東芝)、近藤孝彦(JQA)、原田泰男(パナソニック)
TC108/Plenary	2008-10-8	Matsue, Japan	15	羽鳥委員長(中央大学)、佐藤幸一(日本IBM)、石井明(リコー)、柴田恵(パナソニック)、原田泰男(パナソニック)、正木伸宏(東芝)、近藤孝彦(JQA)、小田豊(セイコーエプソン)、住谷淳吉(JET)、久保田嘉一(コスモス・コーポレーション)、松本達吉(日本IBM)、安田敦(リコー)、井上幹邦(METI)、金枝上敦史(METI)、中西英夫(JBMIA)
TC108/MT2	2008-10-13	Matsue, Japan	10	住谷淳吉(JET)、近藤孝彦(JQA)、石井明(リコー)、正木伸宏(東芝)、柴田恵(パナソニック)、佐藤幸一(日本IBM)、原田泰男(パナソニック)、久保田嘉一(コスモス・コーポレーション)、松本達吉(日本IBM)、安田敦(リコー)
TC108/HBSDT	2008-10-8/10	Matsue, Japan	12	佐藤幸一(日本IBM)、石井明(リコー)、原田泰男(パナソニック)、正木伸宏(東芝)、近藤孝彦(JQA)、塩田雄三(セイコーエプソン)、竹牟禮(東芝テック)、久保田嘉一(コスモス・コーポレーション)、濱島隆史(シャープ)、松本達幸(日本IBM)、齋藤央(SABIC IP)、栗原卓(三菱)
TC108/HBSDT	2009-01-12/16	Florida, Japan	5	佐藤幸一(日本IBM)、石井明(リコー)、原田泰男(パナソニック)、正木伸宏(東芝)、近藤孝彦(JQA)
TC108/WG ENV	2009-03-2/3	Frankfurt, Germany	1	小田豊(セイコーエプソン)
合計			48	

ISO/IEC JTC1/SC 17

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
4909	金融カード-磁気ストライプ第3トラック用データ要素	IS発行					06.06	
7501-1	機械可読旅券	IS発行5版					08.08	
7501-2	機械可読ビザ	IS発行2版					97.07	
7501-3	機械可読旅行文書の寸法	IS発行2版					05.12	
7810	IDカードの物理的特性	IS発行3版					05.12	JIS X 6301
7810 Amd 1	IC付きカードのクライテリア	FPDAM				07.10		
7810 改訂	IDカードの物理的特性	WD	07.03					
7811-1	IDカードのエンボス	IS発行3版					02.04	JIS X 6302-1
7811-2	IDカードの低保磁力磁気ストライプ	IS発行3版					01.02	JIS X 6302-2
7811-3	IDカードのエンボス文字の位置	廃止	7811-2及び6に編入					
7811-4	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-5	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-6	高保磁力磁気ストライプカード	IS発行3版					08.05	JIS X 6302-6
7811-7	IDカード用高密度・高保磁力記録	IS発行初版					04.07	
7811-8	650エルステッド磁気ストライプ	IS発行初版					08.02	
7811-9	記録技術 - 触覚識別記号	IS発行初版 日本提案					08.06	
7812-1	カード発行者番号の付与システム	IS発行3版					06.12	
7812-2	カード発行者番号の登録手続	IS発行3版					07.04	JIS化不要
7813	金融取引用IDカード	IS発行6版					06.06	
7816-1	外部端子付ICカードの物理的特性	IS発行初版					98.10	
7816-1 Amd 1	ICコンタクト面高さ	IS発行					03.11	JIS X6303
7816-1 改訂	外部端子付ICカードの物理的特性	CD	09.03					
7816-2	外部端子付ICカードの外部端子の位置・寸法	IS発行2版					07.10	
7816-3	外部端子付ICカードの電気信号とプロトコル	IS発行3版					06.10	JIS X 6304
7816-4	交換のための構成、セキュリティ及びコマンド	IS発行2版					05.01	JIS X 6306
7816-4 Amd1	記録の活性化及び非活性化	IS発行					08.09	
7816-5	アプリケーション提供者の登録	IS発行2版					04.12	JIS X 6320-5
7816-6	交換のための産業間共通データ要素	IS発行2版					04.05	JIS X 6320-6
7816-6 Cor		承認					06.06	
7816-7	ICカードのSCQL用共通コマンド	IS発行初版					99.03	JIS化不要
7816-8	セキュリティ処理コマンド	IS発行2版					04.06	JIS X 6320-8
7816-9	カード管理共通コマンド	IS発行2版					04.06	JIS X 6320-9
7816-10	同期式カードの操作手順とATR	IS発行初版					99.11	JIS化不要
7816-11	生体認証手法を用いた個人照合	IS発行初版					04.03	JIS X 6320-11
7816-12	USB電気インタフェース及びオペレーティング手	IS発行初版					05:10	
7816-12 Amd1	インタフェース及び操作手順	WD	08.04					
7816-13	アプリケーション環境のアプリケーション管理コ マンド	IS発行初版					07.03	
7816-15	ICカードにおける暗号トークン情報	IS発行初版					04.01	JIS X 6320-15
7816-15 Cor		承認						
7816-15 Amd1	暗号使用事例	IS発行					07.10	
7816-15 Amd2	マルチアプリ環境の誤記修正及び拡張	IS発行					08.11	
8484	磁気ストライプ付き通帳	IS発行初版					07.06	
10373-1	IDカードの試験方法通則	IS発行2版					06.04	JIS X 6305-1
10373-2	磁気カードの試験方法	IS発行2版					06.04	JIS X 6305-2
10373-3	ICカードの試験方法	IS発行初版					01.02	JIS X 6305-3
10373-3改訂	ICカードの試験方法	FCD			09.02			
10373-4	密着型ICカードの試験方法	中止						
10373-5	光メモリーカードの試験方法	IS発行2版					06.01	JIS X 6305-5
10373-6	近接型ICカードの試験方法	IS発行初版					01.05	JIS X 6305-6
10373-6 改訂	近接型ICカードの試験方法	CD	09.03					JIS X 6305-6 追補1(予定)
10373-6 Amd1	近接型ICカードのプロトコル試験方法	IS発行					07.03	
10373-6 Amd2	改良RF法	IS発行					03.10	JIS化不要
10373-6 Amd3	近接カップリングデバイスのプロトコル試験方法	IS発行					06.10	JIS X 6305-6 追補2(予定)
10373-6 Amd4	PCD RFインタフェース及びPICC	IS発行					06.06	JIS化不要
10373-6 Amd5	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					07.10	JIS化不要
10373-6 Amd7	e-パスポートの試験法	FPDAM				09.03		JIS化不要
10373-7	近傍型ICカードの試験方法	IS発行2版					08.04	JIS X 6305-7 (改訂予定)
10373-8	ICカードの試験方法-USB-ICC	CD	08.09					
10536-1	外部端子なしICカード-密着型-物理的特性	IS発行2版					06.03	JIS X 6321-1
10536-2	外部端子なしICカード-密着型-結合領域	IS発行初版					95.12	JIS X 6321-2

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
10536-3	外部端子なしICカードー密着型ー電氣的信号	IS発行初版					96.12	JIS X 6321-3
11693	光メモリーカード通則	廃止へ						JIS X 6330
11693-1	光メモリーカード通則	CD		08.04				
11693-2	光メモリーカードー光メモリーカードとその他の	FCD			08.09			
11694-1	直線記録方式光メモリーカードの物理特性	IS発行3版					05.09	JIS X 6330
11694-2	直線記録方式光メモリーカードの光領域位置 寸法	IS発行3版					05.09	JIS X 6330
11694-3	直線記録方式光メモリーカードの光特性	IS発行3版					08.06	JIS X 6330
11694-4	直線記録方式光メモリーカードの論理方式	IS発行3版					08.06	JIS X 6331
11694-5	直線記録方式光メモリーカードのアプリケーション 対応データフォーマット	IS発行初版					06.03	JIS化不要
11694-6	直線記録方式光メモリーカードへのバイオメ トリックスの利用	IS発行初版					06.03	JIS化不要
11695-1	光メモリーカードーホログラフ記録	IS発行初版					08.10	JIS化不要
11695-2	光メモリーカードーホログラフ記録	IS発行初版					08.10	JIS化不要
11695-3	光メモリーカードーホログラフ記録	IS発行初版					08.10	JIS化不要
12905	カード所持者に適合したインタフェースを用いた 端末利用の向上(ETA)	WD 日本提案	08.10					
14443-1	外部端子なしICカードー近接型ー物理的特性	IS発行2版					08.06	JIS X 6322-1 (改訂予定)
14443-2	外部端子なしICカードー近接型ー電波出力と 信号インタフェース	IS発行初版					01.07	JIS X 6322-2
14443-2 Amd1/Cor		IS発行					07.10	
14443-2 Amd1	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					05.06	
14443-2 改訂	外部端子なしICカードー近接型ー電波出力と 信号インタフェース	FCD			09.03			JIS X 6322-2 (改訂予定)
14443-3	外部端子なしICカードー近接型ー初期化と衝 突防止	IS発行初版					01.02	JIS X 6322-3
14443-3 Amd1	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					05.06	
14443-3 Amd1/Cor		IS発行					06.08	
14443-3 Amd3	リザーブフィールドと値の取り扱い	IS発行					06.03	
14443-3 改訂	外部端子なしICカードー近接型ー初期化と衝 突防止	FCD			09.03			JIS X 6322-2 (改訂予定)
14443-4	外部端子なしICカードー近接型ー伝送プロ トコル	IS発行2版					08.07	JIS X 6322-4 (改訂予定)
15457-1	薄型カードの物理的特性	IS発行2版					08.02	
15457-2	薄型カードの磁気記録方式	IS発行2版					07.06	
15457-3	薄型カードの試験方法	IS発行2版					08.02	
15693-1	外部端子なしICカードー近傍型ー物理的特性	IS発行初版					07.01	JIS X 6323-1
15693-1 改訂	外部端子なしICカードー近傍型ー物理的特性	CD		09.03				JIS X 6323-1 (改訂予定)
15693-2	外部端子なしICカードー近傍型ー電波インタ フェース	IS発行2版					06.12	JIS X 6323-2
15693-3	外部端子なしICカードー近傍型ー衝突防止と 通信プロトコル	IS発行初版						JIS X 6323-3
15693-3 改訂	外部端子なしICカードー近傍型ー衝突防止と 通信プロトコル	FDIS				08.10		JIS X 6323-3 (改訂予定)
18013-1	物理的特性と基本データセット	IS発行初版					05.08	
18013-2	機械読取技術	IS発行初版					08.05	
18013-3	アクセス管理、認証と完全性確認	IS発行初版					09.03	
18013-4	延長アクセス防止	CD	08.11					
20060	OTA仕様 - 仮想マシン仕様	IS発行初版					01.10	JIS化不要
24727-1	プログラムI/F - 構造	IS発行初版					07.01	JIS化不要
24727-2	プログラムI/F - 汎用カードエッジ	IS発行初版					08.09	JIS化不要
24727-3	プログラムI/F - アプリケーションIF	IS発行初版					08.11	JIS化不要
24727-4	プログラムI/F - APIアドミニストレーション	IS発行初版					08.10	JIS化不要
24727-5	プログラムI/F - 試験	CD		08.12				JIS化不要
24727-6	プログラムI/F - 認証プロトコルの登録	FCD			08.12			
24787	オンカードマッチング	CD		09.01				
24789-1	カードサービスライフ 利用者ガイド	CD		08.09				
24789-2	カードサービスライフ 評価項目	CD		08.09				
TR29123	近接型ICカード 相互運用性	TR発行初					07.12	JIS化不要

ISO/IEC JTC1/SC 28

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
10561	クラス1, 2プリンタのスループット測定方法	IS発行2版					99.05	JBMS/JIS化 不要
11159	複写機仕様書様式	IS発行2版 廃止投票 中					97.03	デジタル複写 機仕様を織込 み、H13 JIS化
11160-1	クラス1, 2プリンタの仕様書様式	IS発行					96.08	JBMS/JIS化 不要
11160-2	クラス3, 4プリンタの仕様書様式	IS発行					96.08	JIS B 9527 改正作業中 原案提出: H21.10予定
13660	モノクロ画質測定方法	IS発行					01.09	H12 JIS化 (JISX6930)
14473	イメージスキャナ仕様書様式	IS発行					99.04	JEITA担当
14545	複写生産性測定方法	IS発行					98.12	H12 JIS化
15404	ファクシミリの仕様書様式	IS発行					00.07	CIAJ担当
15775	複写機用カラーテストチャート	IS発行					99.12	H13 JIS化
15775 AMD	アナログテストチャートによるカラー複写機の画 像再現性を特定する方法 - 実現化と適用	AMD発行					05.03	
18050	機械可読デジタル郵便マークの印字品質属性	IS発行					06.02	
19752	Information technology -- Method for the determination of toner cartridge yield for monochromatic electrophotographic printers and multi-function devices that contain printer components	IS発行						
TR19797	16ステップカラスケールによる出力直線化 (TR Type3)	TR発行					04.09	予定無し
19798	カラー電子写真プリンタ及びプリント機能付き複 合機器用トナーカートリッジの寿命決定方法	IS発行2版					07.12	H20JIS制定 JISX6932
19799	印刷ページの光沢度均一性の測定法	IS発行					07.03	
21117	複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試 験方法	IS発行					05.12	(H13 JIS化済 み)
21118	データプロジェクタの仕様書様式	IS発行					05.08	J改訂作業中 (JISX6911)
24700	リユース部品を含むオフィス機器の品質と性能	IS発行					05.07	H19JIS制定 JISX6912
TR24705	デジタル及びアナログテストチャートによるカ ラーデバイスの画像再現特性記述法 (TR	TR発行					05.10	予定無し
24711	カラーインクジェットプリンタ及びプリント機能付 き複合機器用インクカートリッジの寿命決定方	IS発行					07.12	H20JIS制定 JISX6937
24712	消耗材の寿命測定用カラーテストチャート	IS発行2版					07.12	H20JIS制定 JISX6938
24734	デジタル印刷生産性測定	IS発行					09.02	H21年度JIS化 応募済み
24735	デジタル複写生産性測定	IS発行					09.02	H21年度JIS化 応募済み
24790	ハードコピー出力の画質属性測定 - 2値単色 のテキスト及びグラフィック画像	CD		08.09				
28360	電子機器からの化学物質放散速度の測定	IS発行					07.09	JIS化作業中 原案提出: H21.4予定 (JISX6936)
28360 COR1	電子機器からの化学物質放散速度の測定						08.01	同上
29102	カラーインクジェットプリンタ及びその複合機の フォト画像用インクカートリッジ寿命測定方法	WD	08.03					
29103	カラーインクジェットプリンタ用カートリッジ寿命 測定のためのフォト標準テストページセット	WD	07.05					
29112	白黒レーザープリンタの解像力測定方法および テスト・チャート	NP成立	06.12					
29142-1	Cartridge Characterization Standard -- Part 1: General : terms, symbols and notations	NP成立	07.12					
29142-2	Cartridge Characterization Standard -- Part 2: Labeling	NP成立	08.06					

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
29142-3	Cartridge Characterization Standard -- Part 3: Environment	NP成立	08.06					
29142-4	Cartridge Characterization Standard -- Part 4: Ink cartridge attributes	NP成立	08.06					
29142-5	Cartridge Characterization Standard -- Part 5: Toner cartridge attributes	NP成立	08.06					
29183	片面単票原稿でのデジタル複写生産性	NP成立	09.01					
TR29186	オフィスカラー機器におけるカラーガマットマッピングアルゴリズムのテスト方法	NP成立	09.02					

ISO/IEC JTC1/SC35

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
9995-1	Keyboard layouts for text and office systems – Part 1: General principles governing keyboard layout	IS発行					06.08	
9995-1	同上改訂	FCD			09.01			
9995-2	Keyboard layouts for text and office systems – Part 2: Alphanumeric section	IS発行					02.09	
9995-2	同上改訂	FCD			09.01			
9995-3	Amendment 1 Keyboard layouts	IS発行					02.09	
9995-3	同上改訂	CD		09.02				
9995-4	Keyboard layouts for text and office systems – Part 4: Numeric section	IS発行					02.09	
9995-4	同上改訂	FCD			09.01			
9995-5	Keyboard layouts for text and office systems – Part 5: Editing section	IS発行					06.08	
9995-5	同上改訂	FCD			09.01			
9995-6	Keyboard layouts for text and office systems – Part 6: Function section	IS発行					06.08	
9995-7	Keyboard layouts for text and office systems – Part 7: Symbols used to represent functions	IS発行					02.12	
9995-7	同上改訂	FCD			09.01			
9995-8	Keyboard layouts for text and office systems – Part 8: Allocation of letters to the key of a numeric keypad	IS発行					06.08	
9995-8	同上改訂	FCD			09.01			
TR11580 (WG7)	Model for describing user interface objects, actions, and attributes	TR発行					07.03	
11581-1	Icon symbols & functions Part 1: Icons-General	IS発行					00.04	H18.11JIS制定
TR11581-1 (WG7)	User interface icons – Part 1: Introduction to and overview of icon standards	DTR				DTR 09.03		
11581-2	Icon symbols & functions Part 2: Object Icons	IS発行					00.04	H18.11JIS制定
11581-3	Icon symbols & functions Part 3: Pointer Icons	IS発行					00.04	H18.11JIS制定
11581-4	Icon symbols & functions Part 4: Control Icons	キャンセル		2nd 03.12	—	—	—	H17.07キャンセル
11581-5	Icon symbols & functions Part 5: Tool Icons	IS発行					04.05	
11581-6	Icon symbols & functions Part 6: Action Icons	IS発行					99.02	H18.11JIS制定
TR11581-10 (WG7)	User interface icons – Part 10: Framework and general guidance	FCD			08.12			
TR11581-40 (WG2)	User interface icons – Part 40:	CD		08.12				日本提案
NP 13066-1	Information Technology – Interoperability with Assistive Technology (AT) -- Part 1: Requirements and recommendations for interoperability	NP	08.07					
13251	Collective standard – Graphical symbols for office equipment	IS発行					04.05	
14754	Pen-Based Interfaces; Common gestures for Text Editing with Pen-based Systems	IS発行					99.06	H17.11JIS制定
15411	Segmented keyboard layouts	IS発行					99.10	
15412	Keyboard layouts for portable computers	IS発行					99.09	
TR15440 (WG1)	Technical Report on future keyboards & other associated input devices & related entry methods	TR発行					05.07	
15897 (WG5)	Procedures for registration of cultural	FCD			08.09			
18021	User interface for Mobile tools	IS発行					02.02	日本提案 H17.11JIS制
18035	Icon symbols and functions for controlling multimedia applications	IS発行					03.02	
18036	Icon symbols and functions for WWW browser	IS発行					03.10	
TR19764 (WG5)	Guidelines, methodology, and reference criteria for cultural and linguistic adaptability in information technology products	TR発行					05.11	

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage date					JBMS/JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
TR19765 (WG6)	Survey of existing icons and symbols for elderly and disabled persons	TR発行					07.06	
TR19766 (WG6)	Design requirements concerning icons and symbols in IT for elderly and disabled persons	TR発行					07.06	
24738 (WG2)	Icon symbols and functions for multimedia link attributes	IS発行					06.11	
24752-1 (WG8)	Universal remote console – Part1: Framework	IS発行					08.02	
24752-2 (WG8)	Universal remote console – Part2: User interface socket description	IS発行					08.02	
24752-3 (WG8)	Universal remote console – Part3: Presentation template	CD					08.02	
24752-4 (WG8)	Universal remote console – Part4: Target description	CD					08.02	
24752-5 (WG8)	Universal remote console – Part5: Resource description	CD					08.02	
24755 (WG4)	Screen icons and symbols for personal mobile communication devices	IS発行					07.12	日本提案
24756 (WG6)	Framework for specifying a common access profile(CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments	FDIS					09.03	
24757 (WG1)	Keyboard interaction model – Machine-readable keyboard description	IS発行					08.10	
TR24784 (WG1)	Keyboard layouts for alphanumeric inputs Description of ISO/IEC 9995 issues regarding users needs and necessary innovations	TR発行					09.04	
TR24785 (WG5)	Taxonomy of cultural and linguistic adaptability user requirements	TR発行					09.02	
24786 (WG6)	Accessible user interface for accessibility settings	FCD			08.12			日本提案
29136 (WG6)	Accessibility functions for personal computers	WD	09.02					日本提案

IEC/TC108

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)					
			NP	CD	CDV	FDIS	Pub.	JBMS/JIS
IEC60065	オーディオ・ビデオ及び同種の電子機器:安全要求(第7版)	IS発行					01.11	07.07JIS改正
	同、修正No.1(Am.1)	IS発行					05.10	H20年度JIS原案作成予定
	同、修正No.2(Am.2)	CDV			08.12			
IEC60491	写真用電子フラッシュ(第2版)	IS発行					84.01	
IEC60950	パート1:情報技術機器の安全性(第1版)	IS発行					01.10	H20年度JIS制定見込み
	同、Ed.2	IS発行					05.12	H20年度JIS原案作成予定
	同、修正No.1	CDV					09.10	
	パート21:遠隔電力供給	IS発行					02.12	JIS化予定無
	パート23:統合ロボティクスを有する大型IT機	IS発行					05.09	JIS化予定無
	パート22:屋外設置機器	IS発行					05.10	JIS化予定無
IEC60990	タッチカレント測定方法(第2版)	IS発行					99.08	JIS化予定無
IEC61903	情報技術及び通信技術機器のエネルギー効率限度値	廃止				06.10	07.03	2006.09廃止
IEC62018	ITEの消費電力測定法(第1版)	IS発行					03.06	H15年度JIS原案作成⇒TRに変更
IEC62075	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器の環境規格	IS発行					08.01	
IEC/ TR62102	インターフェースの分類	TR発行			00.04		01.03	
	同、Ed.2	TR発行		03.12	DTR 04.12		05.05	
IEC62151	電気通信網に接続される電気機器の安全性(第1版)	IS発行				00.03	00.05	
IEC/ TS62367	通信回線網に接続される回路上のxDSL信号の安全の側面	TS発行					04.01	
IEC62368	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器:安全要求	FDIS				09.04		
IEC/ TS62441	偶然に引き起こされるロウソクの火による発火	TS発行					06.12	